

## II. 市内産業の概況分析

### 2-1. 産業構造

#### (1) 概況

経済センサスにおける産業別従業者数から本市産業の構成比をみると、従業者が多いのは、「卸売業、小売業」(23.8%)、「医療、福祉」(15.1%)、「製造業」(10.4%)、「運輸業、郵便業」(10.1%)であり、これらの4つの産業で市内従業者数全体のほぼ6割(59.4%)を占める。

大阪府全体の構成比と比較すると、本市は「運輸業、郵便業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」の3つは構成比が2ポイント以上、上回っている。一方、「製造業」では、本市(10.4%)は大阪府(13.8%)を最も大きく下回る。

従業地における産業大分類の従業者数(2016年)

従業者数(2016年)	従業者数						構成比					
	茨木市	吹田市	高槻市	箕面市	摂津市	大阪府	茨木市	吹田市	高槻市	箕面市	摂津市	大阪府
総数	102,324	144,593	102,933	41,537	50,781	4,393,139	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
農林漁業	210	38	77	60	9	2,428	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%
鉱業,採石業,砂利採取業	4	-	53	9	-	132	0.0%	-	0.1%	0.0%	-	0.0%
建設業	4,926	7,621	5,182	2,049	2,794	222,338	4.8%	5.3%	5.0%	4.9%	5.5%	5.1%
製造業	10,601	6,968	11,730	1,720	15,029	604,086	10.4%	4.8%	11.4%	4.1%	29.6%	13.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	168	114	392	21	37	12,504	0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.3%
情報通信業	536	2,960	307	346	111	139,601	0.5%	2.0%	0.3%	0.8%	0.2%	3.2%
運輸業,郵便業	10,378	5,715	7,153	2,066	10,197	256,896	10.1%	4.0%	6.9%	5.0%	20.1%	5.8%
卸売業,小売業	24,402	36,510	22,529	12,907	8,250	1,002,387	23.8%	25.3%	21.9%	31.1%	16.2%	22.8%
金融業,保険業	2,325	2,308	1,852	487	454	124,950	2.3%	1.6%	1.8%	1.2%	0.9%	2.8%
不動産業,物品販賣業	4,003	5,165	3,285	1,695	1,457	146,899	3.9%	3.6%	3.2%	4.1%	2.9%	3.3%
学術研究,専門・技術サービス業	3,250	6,120	1,939	932	1,009	146,694	3.2%	4.2%	1.9%	2.2%	2.0%	3.3%
宿泊業,飲食サービス業	9,718	13,219	10,278	5,441	2,080	415,766	9.5%	9.1%	10.0%	13.1%	4.1%	9.5%
生活関連サービス業,娯楽業	3,640	7,772	4,577	1,419	1,020	169,344	3.6%	5.4%	4.4%	3.4%	2.0%	3.9%
教育,学習支援業	5,663	14,805	3,673	2,102	1,278	143,651	5.5%	10.2%	3.6%	5.1%	2.5%	3.3%
医療,福祉	15,495	25,603	22,678	7,401	3,610	574,571	15.1%	17.7%	22.0%	17.8%	7.1%	13.1%
複合サービス事業	301	669	1,067	171	245	21,080	0.3%	0.5%	1.0%	0.4%	0.5%	0.5%
サービス業(他に分類されないもの)	6,704	9,006	6,161	2,711	3,201	409,812	6.6%	6.2%	6.0%	6.5%	6.3%	9.3%

(資料)総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」

#### (2) 近年の事業所数、従業者数の変化

2012年から2016年にかけての4年間では、本市の事業所数は147か所増加し、従業者数も2,077人増加した。増減率を見ると、事業所数、従業者数ともに大阪府全体を上回っている。

第一次産業及び「電気・ガス・熱供給・水道業」を除くと、従業者数の増加数・増加率の両方が特に大きい業種は「教育、学習支援業」で、1,304人増加しており、増加率(29.9%)は近隣4市と大阪府全体の中で最も高かった。また、従業者数の増加人数が最も大きいのは「医療、福祉」で、1,561人の増加が見られ、事業所数の増加も157か所と大きい。また、「卸売業、小売業」も727人の増加が見られた。

一方、300人以上の従業者数の減少が見られたのは、「サービス業(他に分類されないもの)」(685人減)、「生活関連サービス業、娯楽業」(403人減)、「情報通信業」(368人減)、「学術研究、専門・技術サービス業」(321人減)である。

従業者数の大幅に増加した業種と、大幅に減少した業種の双方が見られた。

### 産業大分類別の事業所数・従業者数の変化(2012年→2016年)

(単位:か所、人)

茨木市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	9,132	9,279	147	1.6%	100,247	102,324	2,077	2.1%
農林漁業	9	13	4	44.4%	171	210	39	22.8%
鉱業,採石業,砂利採取業	3	1	-2	-66.7%	15	4	-11	-73.3%
建設業	680	673	-7	-1.0%	5,159	4,926	-233	-4.5%
製造業	473	453	-20	-4.2%	10,489	10,601	112	1.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	7	9	2	28.6%	121	168	47	38.8%
情報通信業	62	58	-4	-6.5%	904	536	-368	-40.7%
運輸業,郵便業	349	372	23	6.6%	10,463	10,378	-85	-0.8%
卸売業,小売業	2,290	2,274	-16	-0.7%	23,675	24,402	727	3.1%
金融業,保険業	132	110	-22	-16.7%	2,272	2,325	53	2.3%
不動産業,物品販賣業	1,191	1,199	8	0.7%	3,786	4,003	217	5.7%
学術研究,専門・技術サービス業	305	295	-10	-3.3%	3,571	3,250	-321	-9.0%
宿泊業,飲食サービス業	1,188	1,185	-3	-0.3%	9,673	9,718	45	0.5%
生活関連サービス業,娯楽業	741	748	7	0.9%	4,043	3,640	-403	-10.0%
教育,学習支援業	341	406	65	19.1%	4,359	5,663	1,304	29.9%
医療,福祉	792	949	157	19.8%	13,934	15,495	1,561	11.2%
複合サービス事業	29	33	4	13.8%	223	301	78	35.0%
サービス業(他に分類されないもの)	540	501	-39	-7.2%	7,389	6,704	-685	-9.3%

(単位:か所、人)

吹田市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	10,962	11,526	564	5.1%	134,589	144,593	10,004	7.4%
農林漁業	4	5	1	25.0%	33	38	5	15.2%
鉱業,採石業,砂利採取業	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	840	824	-16	-1.9%	8,093	7,621	-472	-5.8%
製造業	458	441	-17	-3.7%	8,122	6,968	-1,154	-14.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	6	7	1	16.7%	303	114	-189	-62.4%
情報通信業	220	189	-31	-14.1%	5,504	2,960	-2,544	-46.2%
運輸業,郵便業	187	222	35	18.7%	6,126	5,715	-411	-6.7%
卸売業,小売業	3,100	3,236	136	4.4%	34,398	36,510	2,112	6.1%
金融業,保険業	125	140	15	12.0%	2,019	2,308	289	14.3%
不動産業,物品販賣業	1,321	1,234	-87	-6.6%	5,299	5,165	-134	-2.5%
学術研究,専門・技術サービス業	487	526	39	8.0%	5,931	6,120	189	3.2%
宿泊業,飲食サービス業	1,315	1,354	39	3.0%	12,525	13,219	694	5.5%
生活関連サービス業,娯楽業	881	978	97	11.0%	6,897	7,772	875	12.7%
教育,学習支援業	389	487	98	25.2%	11,716	14,805	3,089	26.4%
医療,福祉	976	1,263	287	29.4%	18,307	25,603	7,296	39.9%
複合サービス事業	42	42	0	0.0%	515	669	154	29.9%
サービス業(他に分類されないもの)	611	578	-33	-5.4%	8,801	9,006	205	2.3%

(単位:か所、人)

高槻市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	9,367	9,320	-47	-0.5%	98,482	102,933	4,451	4.5%
農林漁業	13	15	2	15.4%	117	77	-40	-34.2%
鉱業,採石業,砂利採取業	3	1	-2	-66.7%	63	53	-10	-15.9%
建設業	782	755	-27	-3.5%	5,202	5,182	-20	-0.4%
製造業	439	413	-26	-5.9%	11,443	11,730	287	2.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	8	8	0	0.0%	540	392	-148	-27.4%
情報通信業	57	52	-5	-8.8%	376	307	-69	-18.4%
運輸業,郵便業	221	234	13	5.9%	7,122	7,153	31	0.4%
卸売業,小売業	2,328	2,247	-81	-3.5%	22,050	22,529	479	2.2%
金融業,保険業	117	121	4	3.4%	1,530	1,852	322	21.0%
不動産業,物品販賣業	819	794	-25	-3.1%	2,982	3,285	303	10.2%
学術研究,専門・技術サービス業	304	304	0	0.0%	1,956	1,939	-17	-0.9%
宿泊業,飲食サービス業	1,338	1,258	-80	-6.0%	11,012	10,278	-734	-6.7%
生活関連サービス業,娯楽業	1,031	1,010	-21	-2.0%	4,430	4,577	147	3.3%
教育,学習支援業	381	403	22	5.8%	3,204	3,673	469	14.6%
医療,福祉	979	1,164	185	18.9%	20,212	22,678	2,466	12.2%
複合サービス事業	58	58	0	0.0%	539	1,067	528	98.0%
サービス業(他に分類されないもの)	489	483	-6	-1.2%	5,704	6,161	457	8.0%

(単位：か所、人)

箕面市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	4,176	4,215	39	0.9%	40,104	41,537	1,433	3.6%
農林漁業	8	7	-1	-12.5%	128	60	-68	-53.1%
鉱業,探石業,砂利採取業	1	1	0	0.0%	8	9	1	12.5%
建設業	315	311	-4	-1.3%	2,079	2,049	-30	-1.4%
製造業	142	127	-15	-10.6%	2,039	1,720	-319	-15.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	2	0	0.0%	16	21	5	31.3%
情報通信業	44	40	-4	-9.1%	252	346	94	37.3%
運輸業,郵便業	82	95	13	15.9%	1,807	2,066	259	14.3%
卸売業,小売業	1,185	1,203	18	1.5%	12,690	12,907	217	1.7%
金融業,保険業	39	39	0	0.0%	422	487	65	15.4%
不動産業,物品販賣業	607	548	-59	-9.7%	1,832	1,695	-137	-7.5%
学術研究,専門・技術サービス業	156	141	-15	-9.6%	1,059	932	-127	-12.0%
宿泊業,飲食サービス業	478	523	45	9.4%	5,533	5,441	-92	-1.7%
生活関連サービス業,娯楽業	331	322	-9	-2.7%	1,712	1,419	-293	-17.1%
教育,学習支援業	175	160	-15	-8.6%	1,855	2,102	247	13.3%
医療,福祉	364	457	93	25.5%	5,804	7,401	1,597	27.5%
複合サービス事業	16	15	-1	-6.3%	202	171	-31	-15.3%
サービス業(他に分類されないもの)	231	224	-7	-3.0%	2,666	2,711	45	1.7%

(単位：か所、人)

摂津市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	4,147	4,082	-65	-1.6%	50,519	50,781	262	0.5%
農林漁業	1	3	2	200.0%	19	9	-10	-52.6%
鉱業,探石業,砂利採取業	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	415	397	-18	-4.3%	3,179	2,794	-385	-12.1%
製造業	770	708	-62	-8.1%	15,353	15,029	-324	-2.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	7	4	-3	-42.9%	51	37	-14	-27.5%
情報通信業	19	11	-8	-42.1%	180	111	-69	-38.3%
運輸業,郵便業	333	336	3	0.9%	10,729	10,197	-532	-5.0%
卸売業,小売業	888	859	-29	-3.3%	7,906	8,250	344	4.4%
金融業,保険業	33	34	1	3.0%	413	454	41	9.9%
不動産業,物品販賣業	437	418	-19	-4.3%	1,514	1,457	-57	-3.8%
学術研究,専門・技術サービス業	64	65	1	1.6%	415	1,009	594	143.1%
宿泊業,飲食サービス業	389	365	-24	-6.2%	2,410	2,080	-330	-13.7%
生活関連サービス業,娯楽業	258	253	-5	-1.9%	1,009	1,020	11	1.1%
教育,学習支援業	88	97	9	10.2%	1,003	1,278	275	27.4%
医療,福祉	181	243	62	34.3%	3,026	3,610	584	19.3%
複合サービス事業	11	11	0	0.0%	118	245	127	107.6%
サービス業(他に分類されないもの)	253	278	25	9.9%	3,194	3,201	7	0.2%

(単位：か所、人)

大阪府	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	408,713	392,940	-15,773	-3.9%	4,334,776	4,393,139	58,363	1.3%
農林漁業	258	292	34	13.2%	2,522	2,428	-94	-3.7%
鉱業,探石業,砂利採取業	26	13	-13	-50.0%	205	132	-73	-35.6%
建設業	26,772	25,089	-1,683	-6.3%	240,514	222,338	-18,176	-7.6%
製造業	47,442	42,680	-4,762	-10.0%	648,017	604,086	-43,931	-6.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	200	229	29	14.5%	15,014	12,504	-2,510	-16.7%
情報通信業	6,342	5,842	-500	-7.9%	150,807	139,601	-11,206	-7.4%
運輸業,郵便業	10,925	10,489	-436	-4.0%	268,875	256,896	-11,979	-4.5%
卸売業,小売業	105,056	99,597	-5,459	-5.2%	981,745	1,002,387	20,642	2.1%
金融業,保険業	5,761	5,442	-319	-5.5%	122,338	124,950	2,612	2.1%
不動産業,物品販賣業	36,977	33,574	-3,403	-9.2%	152,153	146,899	-5,254	-3.5%
学術研究,専門・技術サービス業	18,384	18,083	-301	-1.6%	135,023	146,694	11,671	8.6%
宿泊業,飲食サービス業	56,359	52,979	-3,380	-6.0%	429,189	415,766	-13,423	-3.1%
生活関連サービス業,娯楽業	30,388	29,366	-1,022	-3.4%	179,899	169,344	-10,555	-5.9%
教育,学習支援業	10,974	11,546	572	5.2%	129,771	143,651	13,880	10.7%
医療,福祉	28,791	34,357	5,566	19.3%	484,203	574,571	90,368	18.7%
複合サービス事業	1,303	1,380	77	5.9%	13,288	21,080	7,792	58.6%
サービス業(他に分類されないもの)	22,755	21,982	-773	-3.4%	381,213	409,812	28,599	7.5%

(資料)総務省「経済センサス(平成 24 年)(平成 28 年)」

### (3) 従業者規模別比較

従業者規模別に2012年から2016年の4年間の推移を見ると、本市では「100人以上」では事業所数、従業者数ともに減少している。これは、近隣4市や大阪府全体では見られない傾向である。

その他では、「30～49人」「50～99人」では、事業所数、従業者数ともに増加しており、増減率は大阪府全体よりも多くなっている。また、「1～9人」「10～29人」では、事業所数、従業者数ともに増減の割合が小さく、事業所数、従業者数とも増加している吹田市とは異なる傾向にある。

従業者規模別の事業所数・従業者数の変化(2012年→2016年)

(単位：か所、人)

茨木市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	9,132	9,279	147	1.6%	100,247	102,324	2,077	2.1%
1～9人	6,860	6,924	64	0.9%	23,133	22,700	-433	-1.9%
10～29人	1,579	1,602	23	1.5%	25,799	26,140	341	1.3%
30～49人	321	368	47	14.6%	11,976	13,898	1,922	16.0%
50～99人	212	225	13	6.1%	14,586	15,423	837	5.7%
100人以上	115	111	-4	-3.5%	24,753	24,163	-590	-2.4%

(単位：か所、人)

吹田市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	10,962	11,526	564	5.1%	134,589	144,593	10,004	7.4%
1～9人	8,052	8,413	361	4.5%	28,488	29,598	1,110	3.9%
10～29人	2,046	2,185	139	6.8%	33,691	35,853	2,162	6.4%
30～49人	389	442	53	13.6%	14,594	16,520	1,926	13.2%
50～99人	245	262	17	6.9%	16,898	18,160	1,262	7.5%
100人以上	152	152	0	0.0%	40,918	44,462	3,544	8.7%

(単位：か所、人)

高槻市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	9,367	9,320	-47	-0.5%	98,482	102,933	4,451	4.5%
1～9人	7,295	7,223	-72	-1.0%	23,878	23,803	-75	-0.3%
10～29人	1,449	1,457	8	0.6%	24,234	24,607	373	1.5%
30～49人	284	300	16	5.6%	10,607	11,292	685	6.5%
50～99人	186	171	-15	-8.1%	12,619	11,758	-861	-6.8%
100人以上	114	127	13	11.4%	27,144	31,473	4,329	15.9%

(単位：か所、人)

箕面市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	4,176	4,215	39	0.9%	40,104	41,537	1,433	3.6%
1～9人	3,197	3,165	-32	-1.0%	10,560	10,690	130	1.2%
10～29人	684	732	48	7.0%	11,286	11,647	361	3.2%
30～49人	140	164	24	17.1%	5,295	6,168	873	16.5%
50～99人	87	92	5	5.7%	6,006	6,123	117	1.9%
100人以上	42	43	1	2.4%	6,957	6,909	-48	-0.7%

(単位：か所、人)

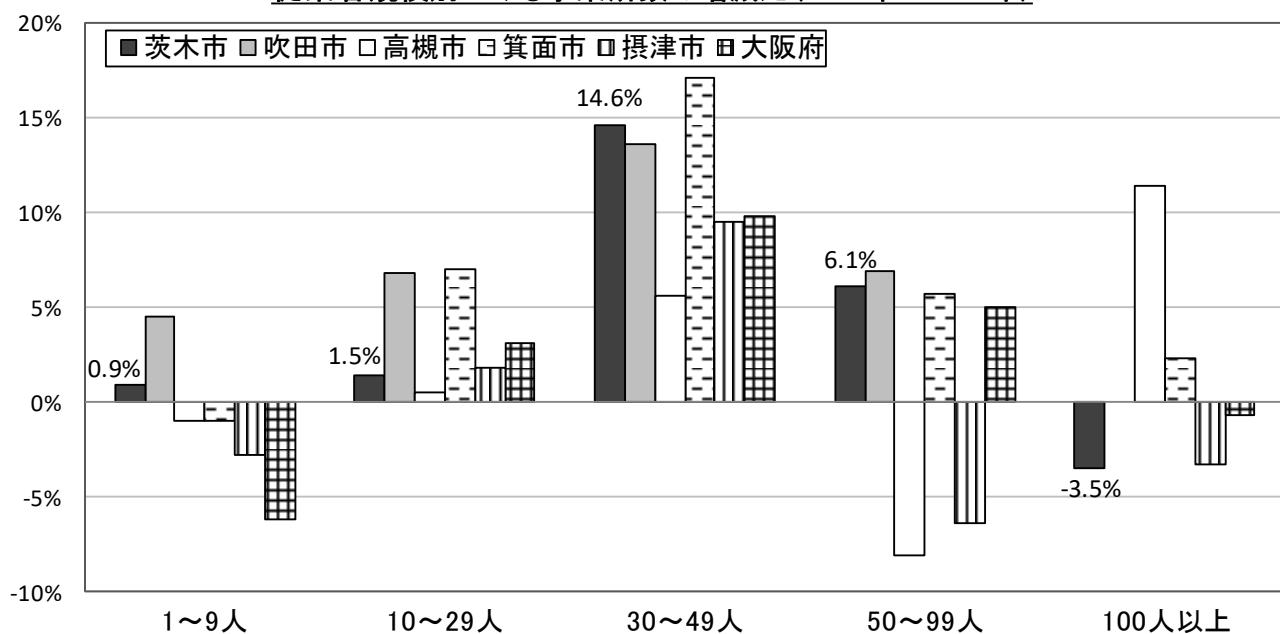
摂津市	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	4,147	4,082	-65	-1.6%	50,519	50,781	262	0.5%
1～9人	3,066	2,980	-86	-2.8%	10,696	10,369	-327	-3.1%
10～29人	749	763	14	1.9%	12,534	12,704	170	1.4%
30～49人	157	172	15	9.6%	5,926	6,535	609	10.3%
50～99人	95	89	-6	-6.3%	6,530	6,111	-419	-6.4%
100人以上	61	59	-2	-3.3%	14,833	15,062	229	1.5%

(単位：か所、人)

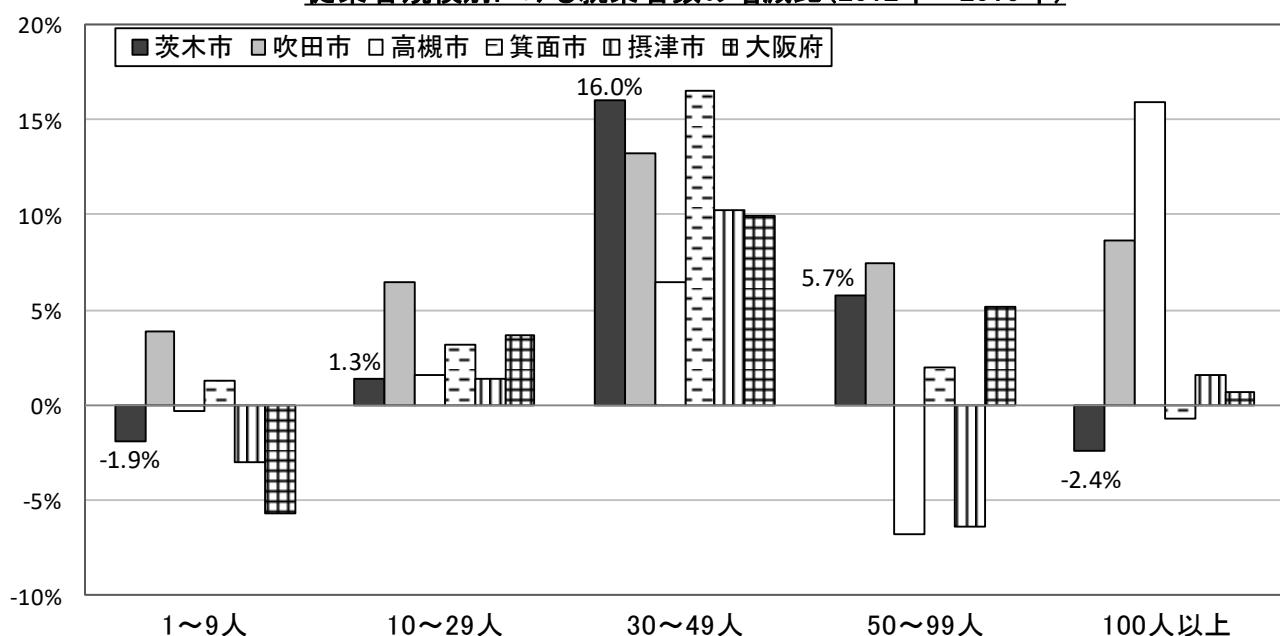
大阪府	事業所数				従業者数			
	2012年	2016年	増減	増減率	2012年	2016年	増減	増減率
総数	408,713	392,940	-15,773	-3.9%	4,334,776	4,393,139	58,363	1.3%
1～9人	318,485	299,008	-19,477	-6.1%	1,053,213	993,615	-59,598	-5.7%
10～29人	63,904	65,918	2,014	3.2%	1,038,366	1,076,529	38,163	3.7%
30～49人	11,875	13,042	1,167	9.8%	447,739	492,352	44,613	10.0%
50～99人	7,610	7,991	381	5.0%	519,706	546,597	26,891	5.2%
100人以上	4,988	4,956	-32	-0.6%	1,275,752	1,284,046	8,294	0.7%

(資料)総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」

### 従業者規模別にみる事業所数の増減比(2012年→2016年)



### 従業者規模別にみる就業者数の増減比(2012年→2016年)



(資料)総務省「経済センサス(平成 28 年)活動調査」

#### (4) 開業率、廃業率の推移

2012 年度から 2018 年度にかけての 7 年間の推移を見ると、本市を含む茨木区分※は、全国平均や大阪府全体と比べると、2017 年度までは開業率は上回り、廃業率は下回るという、開業する事業者が比較的多い地域であった。

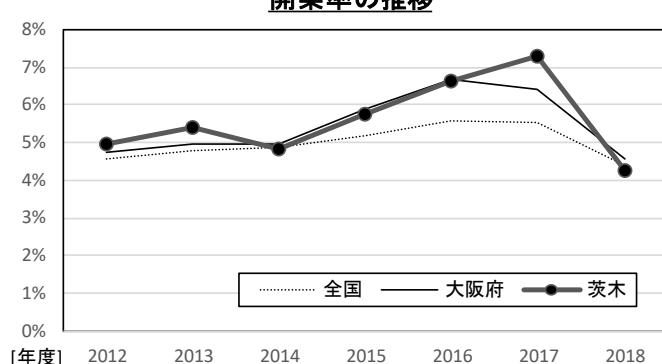
しかし、2018 年度は、全国平均や大阪府全体と比べると、開業率（4.25%）が下回り、廃業率（4.57%）が上回る状況に一転し、さらに、開業率を廃業率が上回るようになった。これには大阪府北部地震や台風第 21 号等の災害も影響しているものと考えられるが、茨木区分において、廃業率が 2015 年以降は毎年増加している傾向を鑑みると、今後も同様の傾向が続く可能性があるものと懸念される。

開業率、廃業率の変化(2012 年→2018 年)

《開業率》

年度	茨木	全国	大阪府
2012	4.95%	4.58%	4.75%
2013	5.40%	4.80%	4.97%
2014	4.83%	4.86%	4.96%
2015	5.74%	5.18%	5.91%
2016	6.62%	5.60%	6.67%
2017	7.28%	5.55%	6.43%
2018	4.25%	4.41%	4.57%

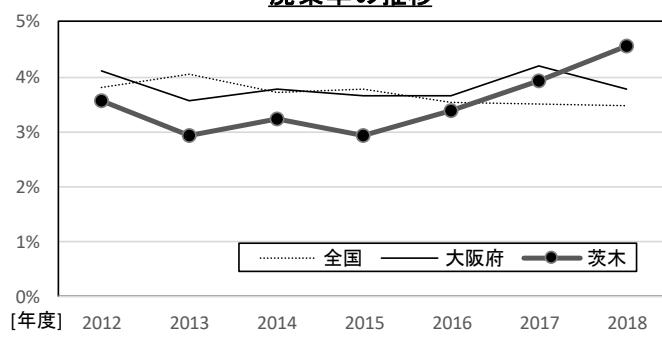
開業率の推移



《廃業率》

年度	茨木	全国	大阪府
2012	3.58%	3.82%	4.10%
2013	2.94%	4.04%	3.55%
2014	3.25%	3.71%	3.77%
2015	2.92%	3.79%	3.65%
2016	3.38%	3.52%	3.66%
2017	3.94%	3.49%	4.20%
2018	4.57%	3.47%	3.78%

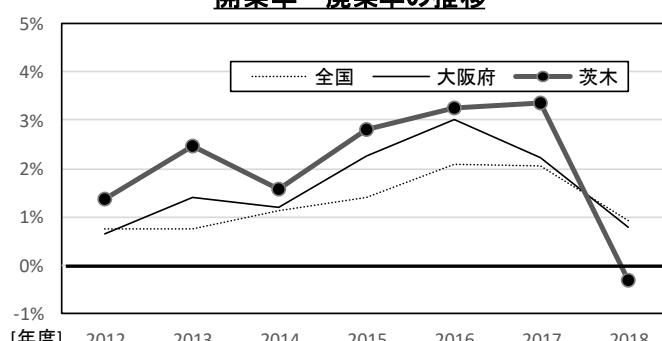
廃業率の推移



《開業率－廃業率》

年度	茨木	全国	大阪府
2012	1.38%	0.76%	0.65%
2013	2.46%	0.76%	1.42%
2014	1.59%	1.15%	1.19%
2015	2.82%	1.39%	2.26%
2016	3.25%	2.08%	3.01%
2017	3.35%	2.06%	2.23%
2018	-0.32%	0.94%	0.79%

開業率－廃業率の推移



出典:厚生労働省『雇用保険事業年報』(全国・府データ)、大阪労働局統計年報 雇用保険業務関係(「茨木」データ)

(開業率は当年度の新規事業所数合計を、廃業率は当年度の廃止事業所数合計を、それぞれ前年度末の適用事業所数で除したものを示す)

\* 茨木区分は茨木公共職業安定所の管轄区域内の統計(茨木市、高槻市、摂津市、三島郡島本町の 3 市 1 町)を示す。

## (5) 有効求人倍率※1 の推移

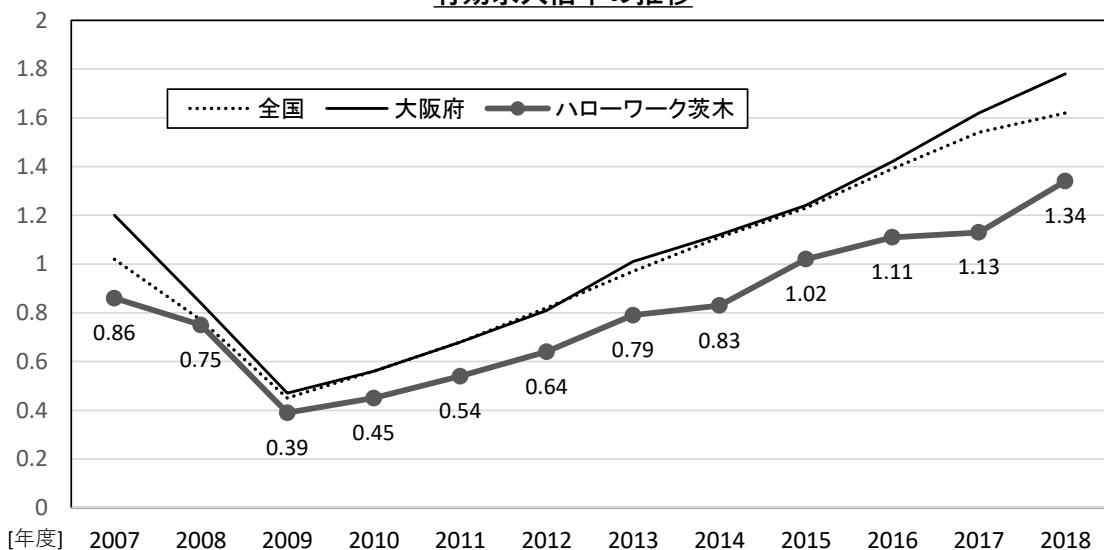
2007 年度から 2018 年度にかけての 12 年間の推移を見ると、茨木公共職業安定所（ハローワーク茨木※2）では、全国平均や大阪府全体と同様に、2009 年度の有効求人倍率が最も低くなっている。2009 年以降は、有効求人倍率は増加の一途をたどっており、2018 年は 1.34 と人手不足の状況にあるものと考えられる。

2018 年度は、全国平均や大阪府全体と比べると、全国平均は 0.28 ポイント、大阪府全体は 0.44 ポイント、それぞれハローワーク茨木の方が小さい。しかし、2017 年から 2018 年にかけてハローワーク茨木では 0.21 ポイント増と有効求人倍率の大幅な増加が見られ、今後は人手不足の深刻化が進むものと懸念される。

有効求人倍率の推移(2007 年→2018 年)

年度	ハローワーク 茨木	全国	大阪府
2007	0.86	1.02	1.2
2008	0.75	0.77	0.84
2009	0.39	0.45	0.47
2010	0.45	0.56	0.56
2011	0.54	0.68	0.68
2012	0.64	0.82	0.81
2013	0.79	0.97	1.01
2014	0.83	1.11	1.12
2015	1.02	1.23	1.24
2016	1.11	1.39	1.42
2017	1.13	1.54	1.62
2018	1.34	1.62	1.78

有効求人倍率の推移



出典:ハローワーク茨木 雇用情報

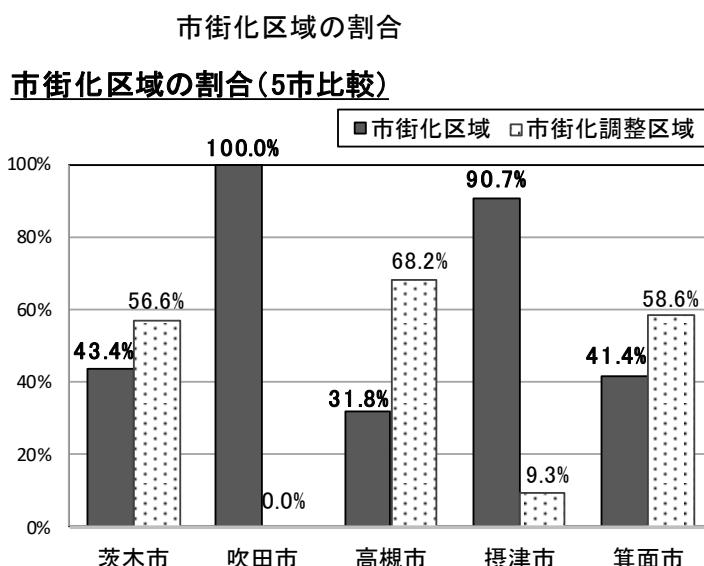
※1 企業からの求人数(有効求人数)を、ハローワークに登録している求職者(有効求職者数)で割った値。求職者数よりも 求人数が多いときは人手が不足しているときは、有効求人倍率が 1 を上回り、逆のときは 1 を下回る。

※2 ハローワーク茨木の区域は、茨木公共職業安定所の管轄区域内(茨木市、高槻市、摂津市、三島郡島本町の 3 市 1 町)の合計となっている。

## (6) 土地利用

本市の市街化区域は 3,323ha で、市域面積の 43.4%を占める。面積は、吹田市、高槻市と同規模であるが、市域面積から見た割合は吹田市(100.0%)、摂津市(90.7%)の半数以下に止まる。

用途地域別面積やその割合について見ると、茨木市は住居専用地域群や住居地域群の割合が全般的に多い一方で、近隣商業地域・商業地域や工業地域の構成比が小さい。特に、本市の近隣商業地域・商業地域（計 165ha）は、吹田市（計 268ha）の約 6 割で、市域面積の小さい箕面市（計 181ha）よりも小さくなっている。

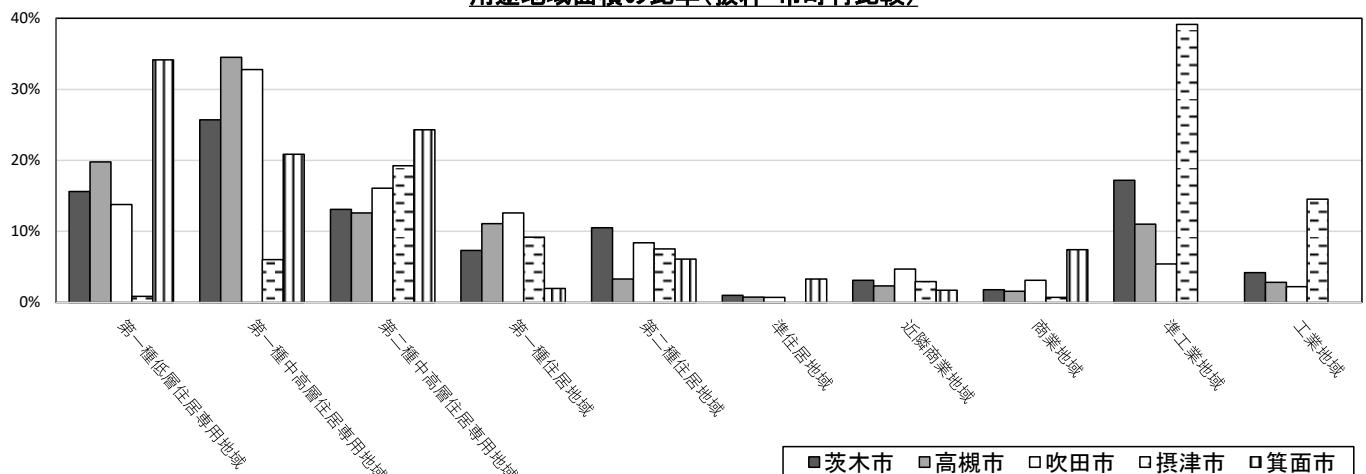


	市面積	市街化区域	市街化調整区域
茨木市	実数(ha)	7,649	3,323
	構成比	100.0%	43.4%
	資料	※2016年3月30日現在	
吹田市	実数(ha)	3,609	3,609
	構成比	100.0%	100.0%
	資料	※2019年12月3日現在	
高槻市	実数(ha)	10,529	3,344
	構成比	100.0%	31.8%
	資料	※2019年2月末日現在	
箕面市	実数(ha)	4,790	1,985
	構成比	100.0%	41.4%
	資料	※2019年4月1日基準	
摂津市	実数(ha)	1,487	1,349
	構成比	100.0%	90.7%
	資料	※2020年2月20日HPより	

用途地域別割合

	第一種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	準住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	情報源
茨木市	実数(ha)	525	3.1	855	436	244	349	33	104	61	571	141
	構成比	15.6%	0.1%	25.7%	13.1%	7.3%	10.5%	1.0%	3.1%	1.8%	17.2%	4.2%
高槻市	実数(ha)	662	6.3	1,154	421	371	110	25	78	53	368	94
	構成比	19.8%	0.2%	34.5%	12.6%	11.1%	3.3%	0.7%	2.3%	1.6%	11.0%	2.8%
吹田市	実数(ha)	473	6.5	1,123	553	430	286	24	161	107	184	77
	構成比	13.8%	0.2%	32.8%	16.1%	12.6%	8.4%	0.7%	4.7%	3.1%	5.4%	2.2%
摂津市	実数(ha)	10.5	0.0	75.7	241.9	115.6	94.8	0.0	36.6	8.5	492.7	182.7
	構成比	0.8%	0.0%	6.0%	19.2%	9.2%	7.5%	0.0%	2.9%	0.7%	39.1%	14.5%
箕面市	実数(ha)	678.0	4.1	414.0	482.0	39.0	121.0	65.0	34.0	147.0	0.0	0.0
	構成比	34.2%	0.2%	20.9%	24.3%	2.0%	6.1%	3.3%	1.7%	7.4%	0.0%	0.0%

用途地域面積の比率(抜粋・市町村比較)



## 2-2. 製造業

### (1) 概況

本市の事業所数は、2017年時点で185か所あり、近隣4市との比較では摂津市、高槻市に次いで3番目に多く、2007年から2017年の10年間で27.5%減少している。従業者数では、10年間で24.7%減少しており、大阪府全体や近隣4市と比べると吹田市に次いで減少率が大きい。製造品出荷額等※では、36.6%減少しており、大阪府全体や近隣4市と比べて減少率が最も大きい。

事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移を見ると、事業所数、従業者数は近年それぞれ緩やかに減少しているものの、2017年は従業者数が微増となった。また、製造品出荷額等は、本市では2010年から2012年に大幅な減少が見られたが、2013年以降は微増している。

※1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、製造工程から出るくず・廃物の出荷額及びその他収入額の合計。

事業所数・従業者数・製造品出荷額等の変化

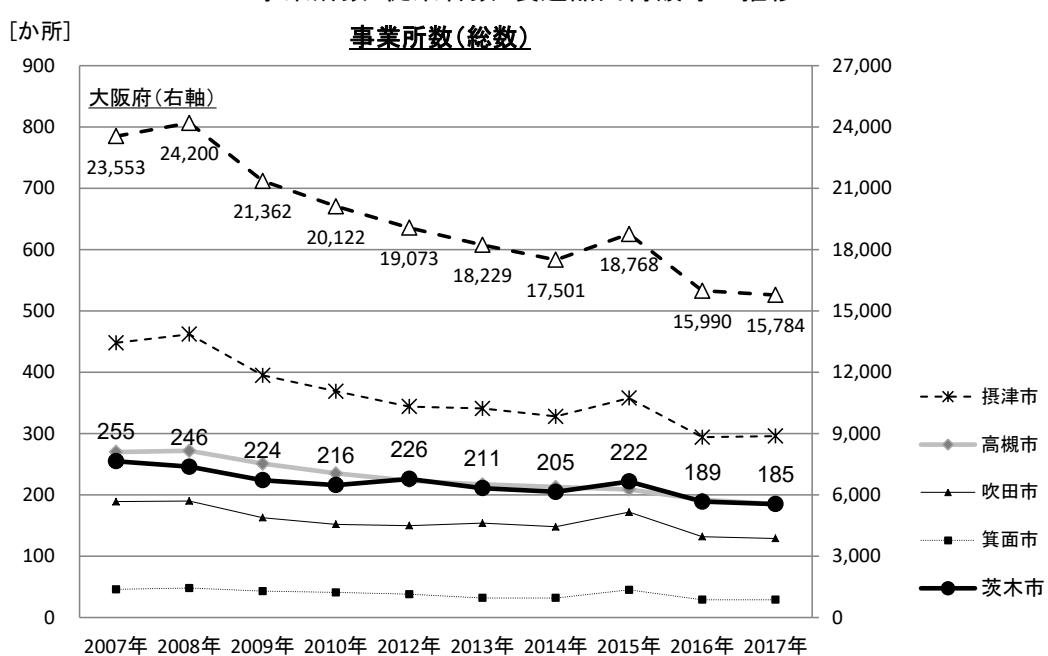
(単位：か所、人、億円)

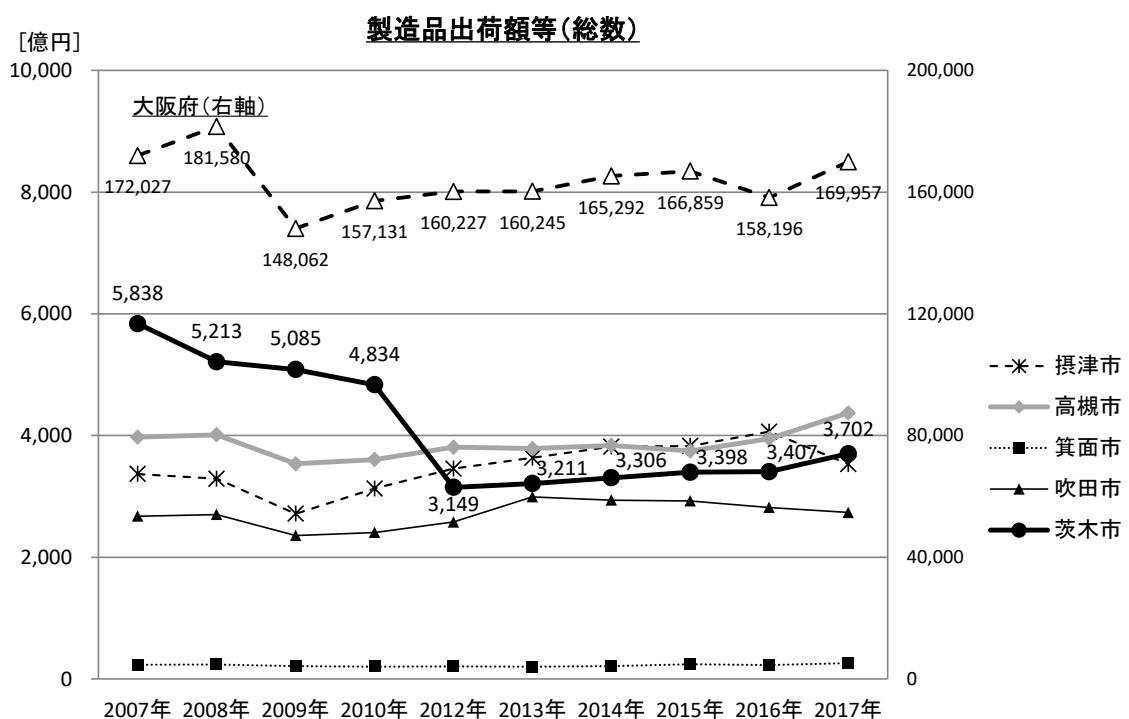
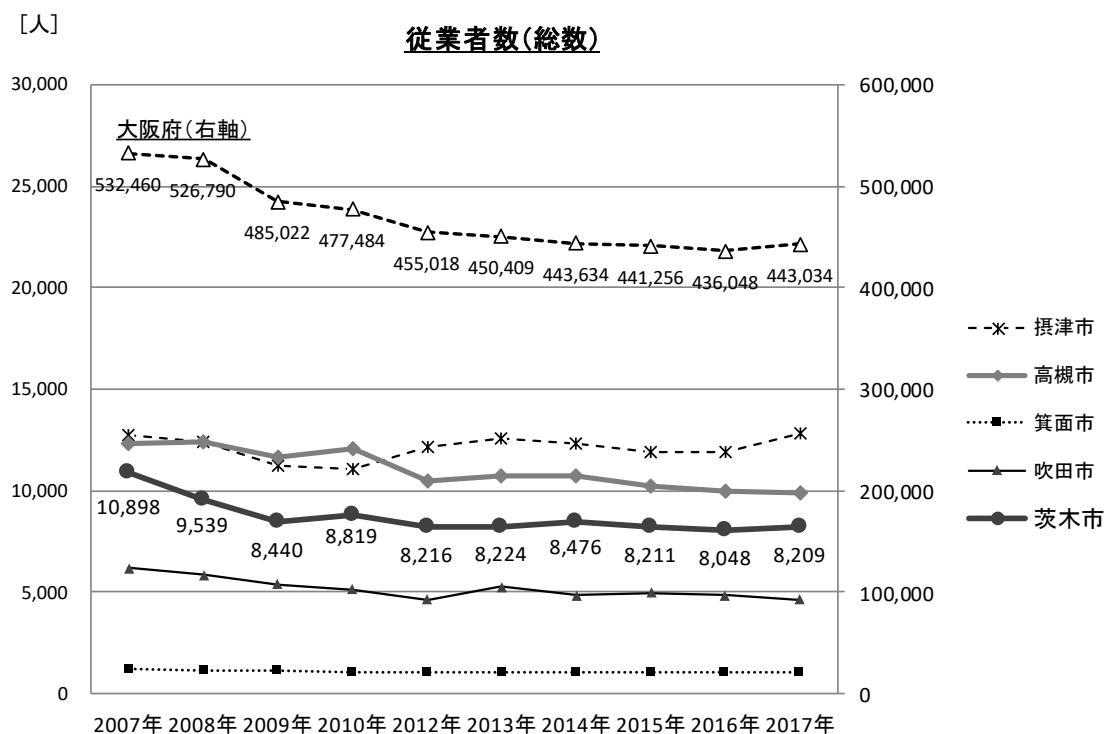
	実数	増減			増減率					
		2007年	2012年	2017年	'07→'12	'12→'17	'07→'17	'07→'12	'12→'17	'07→'17
事業所数	茨木市	255	226	185	-29	-41	-70	-11.4%	-18.1%	-27.5%
	吹田市	189	150	129	-39	-21	-60	-20.6%	-14.0%	-31.7%
	高槻市	270	223	185	-47	-38	-85	-17.4%	-17.0%	-31.5%
	箕面市	46	38	29	-8	-9	-17	-17.4%	-23.7%	-37.0%
	摂津市	448	344	296	-104	-48	-152	-23.2%	-14.0%	-33.9%
	大阪府	23,553	8,216	15,784	-15,337	7,568	-7,769	-65.1%	92.1%	-33.0%
従業者数	茨木市	10,898	8,216	8,209	-2,682	-7	-2,689	-24.6%	-0.1%	-24.7%
	吹田市	6,169	4,646	4,631	-1,523	-15	-1,538	-24.7%	-0.3%	-24.9%
	高槻市	12,355	10,472	9,890	-1,883	-582	-2,465	-15.2%	-5.6%	-20.0%
	箕面市	1,181	1,065	1,057	-116	-8	-124	-9.8%	-0.8%	-10.5%
	摂津市	12,730	12,132	12,838	-598	706	108	-4.7%	5.8%	0.8%
	大阪府	532,460	455,018	443,034	-77,442	-11,984	-89,426	-14.5%	-2.6%	-16.8%
製造品出荷額等	茨木市	5,838	3,149	3,702	-2,689	553	-2,136	-46.1%	17.6%	-36.6%
	吹田市	2,675	2,580	2,737	-95	156	62	-3.5%	6.1%	2.3%
	高槻市	3,975	3,808	4,373	-167	564	397	-4.2%	14.8%	10.0%
	箕面市	235	208	260	-26	52	26	-11.1%	24.9%	11.0%
	摂津市	3,369	3,456	3,532	87	75	162	2.6%	2.2%	4.8%
	大阪府	172,027	160,227	169,957	-11,800	9,730	-2,070	-6.9%	6.1%	-1.2%

(注) 従業者4人以上の事業所。事業所数及び従業者数については、平成23年は平成24年2月1日現在、平成27年以降は翌年の6月1日現在、その他の年次は同じ年の12月31日現在の数値。

(資料) 大阪府「大阪の工業(各年調査)確報」

事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移





※2011年は、市町村別データがないため、省略して推移を整理している。

(資料) 大阪府「大阪の工業(各年調査)確報」

## (2) 業種別

従業者数の構成比(2017年)を見ると、本市で最も高いのは「プラスチック製品製造業」(17.3%)である。次いで、「金属製品製造業」(16.4%)、「食料品製造業」(16.3%)、「化学工業」(13.0%)、「生産用機械器具製造業」(10.2%)と続く。

大阪府全体と比べると、「プラスチック製品製造業」「化学工業」の構成比が高くなっている。

近隣4市と比べると、摂津市とは業種別の構成比がやや似ており、「食料品製造業」の構成比が高い吹田市、高槻市、「繊維工業」「電気機械器具製造業」の構成比が高い箕面市とは異なる傾向にある。

業種別従業者数・上位8位(2017年)

(単位：人)			
順位	茨木市	従業者数	構成比
第1位	プラスチック製品製造業	1,421	17.3%
第2位	金属製品製造業	1,350	16.4%
第3位	食料品製造業	1,336	16.3%
第4位	化学工業	1,066	13.0%
第5位	生産用機械器具製造業	839	10.2%
第6位	鉄鋼業	372	4.5%
第7位	パルプ・紙・紙加工品製造業	352	4.3%
第8位	輸送用機械器具製造業	299	3.6%

(単位：人)			
順位	吹田市	従業者数	構成比
第1位	食料品製造業	1,457	31.5%
第2位	化学工業	442	9.5%
第3位	パルプ・紙・紙加工品製造業	411	8.9%
第4位	鉄鋼業	303	6.5%
第5位	生産用機械器具製造業	280	6.0%
第6位	金属製品製造業	257	5.5%
第7位	電気機械器具製造業	228	4.9%
第8位	印刷・同関連業	204	4.4%

(単位：人)			
順位	高槻市	従業者数	構成比
第1位	食料品製造業	1,996	20.2%
第2位	電気機械器具製造業	1,499	15.2%
第3位	化学工業	1,189	12.0%
第4位	はん用機械器具製造業	1,164	11.8%
第5位	金属製品製造業	807	8.2%
第6位	プラスチック製品製造業	651	6.6%
第7位	生産用機械器具製造業	590	6.0%
第8位	パルプ・紙・紙加工品製造業	453	4.6%

(単位：人)			
順位	箕面市	従業者数	構成比
第1位	繊維工業	447	42.3%
第2位	電気機械器具製造業	386	36.5%
第3位	パルプ・紙・紙加工品製造業	58	5.5%
第4位	プラスチック製品製造業	54	5.1%
第5位	生産用機械器具製造業	35	3.3%
第6位	食料品製造業	23	2.2%
第7位	窯業・土石製品製造業	20	1.9%
第8位	印刷・同関連業	9	0.9%

(単位：人)			
順位	摂津市	従業者数	構成比
第1位	化学工業	3,386	26.4%
第2位	プラスチック製品製造業	1,906	14.8%
第3位	食料品製造業	1,595	12.4%
第4位	電気機械器具製造業	1,152	9.0%
第5位	生産用機械器具製造業	1,115	8.7%
第6位	その他の製造業	885	6.9%
第7位	金属製品製造業	814	6.3%
第8位	はん用機械器具製造業	552	4.3%

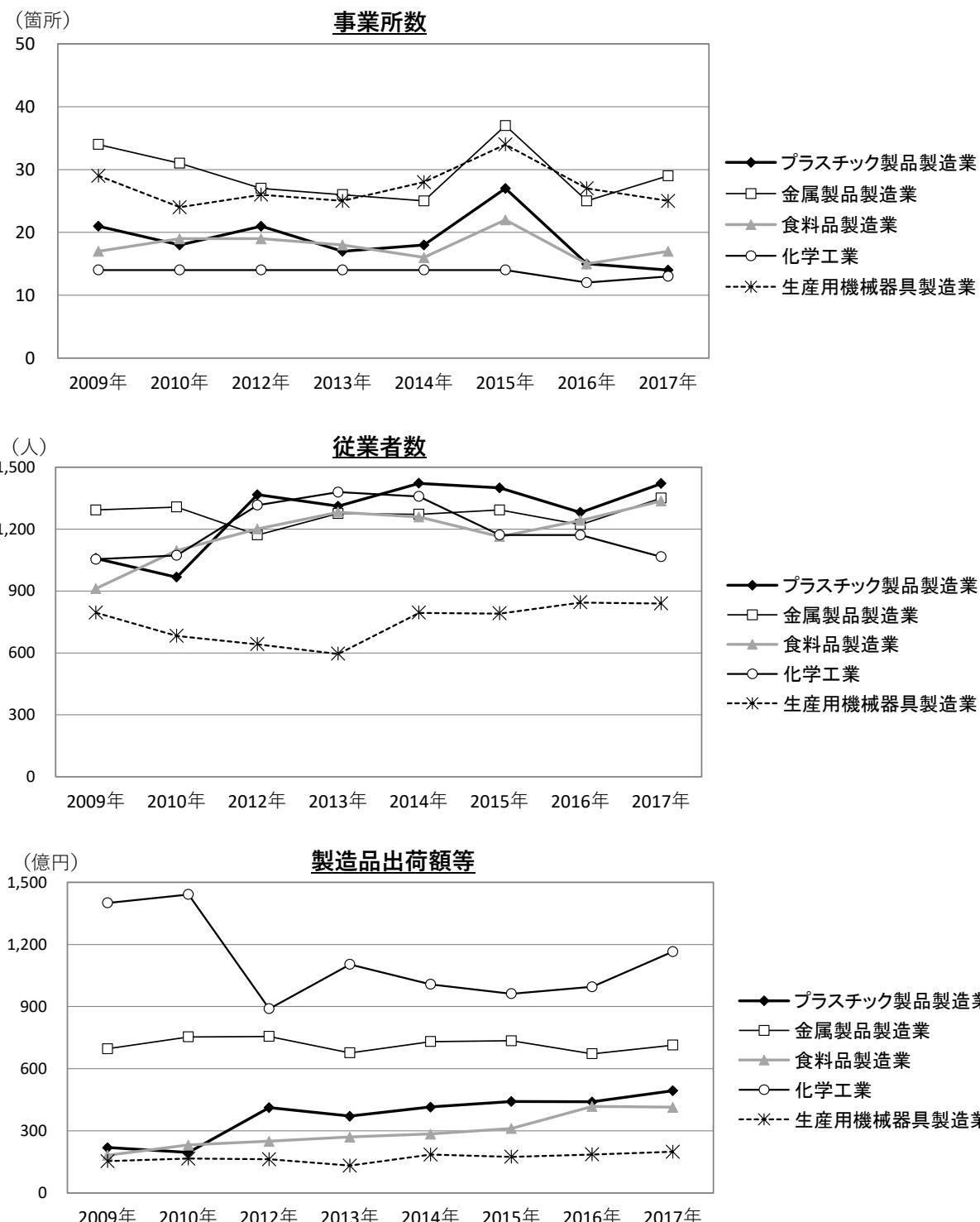
(単位：人)			
順位	大阪府	従業者数	構成比
第1位	金属製品製造業	62,438	14.1%
第2位	食料品製造業	49,071	11.1%
第3位	生産用機械器具製造業	45,532	10.3%
第4位	プラスチック製品製造業	31,961	7.2%
第5位	化学工業	30,920	7.0%
第6位	電気機械器具製造業	28,248	6.4%
第7位	はん用機械器具製造業	27,673	6.2%
第8位	輸送用機械器具製造業	27,034	6.1%

(資料) 大阪府「大阪の工業(2018年)確報」

本市製造業における従業者数の上位 5 位を占める業種について、事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移を見ると、事業所数において 2015 年で増加した後に 2016 年で減少する傾向が見られるが、2013 年以降は、いずれもほぼ横ばいである。

製造品出荷額等において、2010 年から 2012 年の 2 年間で、「化学工業」が概ね 4 割減と大幅に減少した一方で、「プラスチック製品製造業」はほぼ倍増している。また、「プラスチック製品製造業」については、同 2 年間で事業所数、従業者数ともに増加している。

主要業種別の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移(本市)



※2011 年は、市町村別データがないため、省略して推移を整理している。 (資料) 大阪府「大阪の工業(各年調査)確報」

市内における大規模事業所の移転・閉鎖状況及び新規立地状況を見ると、電気機械器具製造業、化学工業で複数の工場閉鎖や移転が見られた一方で、生産用機械器具製造業、プラスチック製品製造業、化学工業の新規立地が見られた。

#### 市内における主な大規模事業所の移転・閉鎖状況(2008 年以降・製造業のみ)

企業名	業種	移転・工場閉鎖
ダイハツディーゼル NHN(株)	金属製品製造業	2009 年 2 月に解散
東洋ゴム工業(株) (現・TOYO TIRE(株))	ゴム製品製造業	2013 年 12 月に研究開発センターが兵庫県川西市に移転
パナソニック(株)	電気機械器具製造業	2014 年 3 月の同社のプラズマテレビ事業撤退にともない、液晶ディスプレイ工場での生産を終了
(株)ナンバースリー	化学工業	2015 年 2 月に本社及び工場を兵庫県神戸市に移転
帝人(株)	繊維工業	2015 年 12 月に大阪研究センターを閉鎖
日立マクセル(株) (現・マクセルホールディングス(株))	電気機械器具製造業	2017 年 8 月に大阪事業所における生産終了
大日本住友製薬(株)	化学工業	2019 年 3 月に茨木工場における生産終了

(資料) 各企業のホームページまたは新聞記事より作成

#### 市内における主な大規模事業所の新規立地状況(2008 年以降・製造業のみ)

企業名	業種	新規立地
トヨーポリマー(株)	プラスチック製品製造業	2008 年 5 月に彩都テクノセンター(現・中央研究所)を開設
(株)クマリフトコーポレーション (現・クマリフト(株))	生産用機械器具製造業	2013 年 11 月に R&D センター及びテクニカルセンターを開設
(株)資生堂	化学工業	2020 年 12 月に新工場が完成予定
(株)瑞光	生産用機械器具製造業	2021 年 7 月に新工場が完成予定

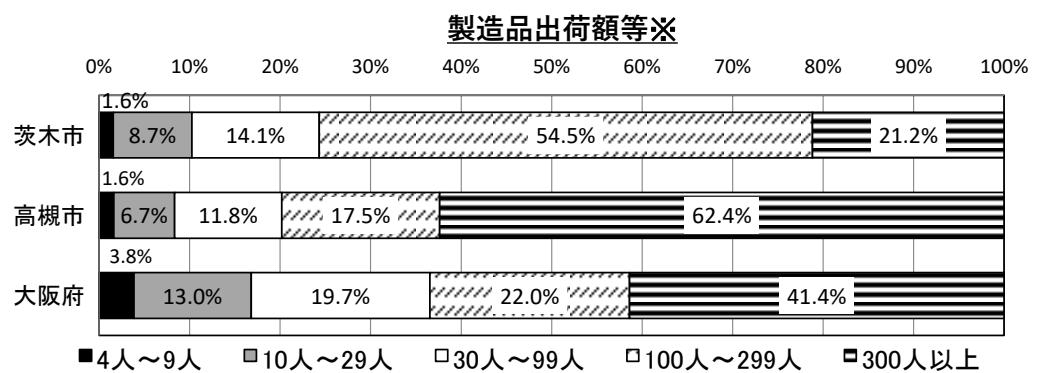
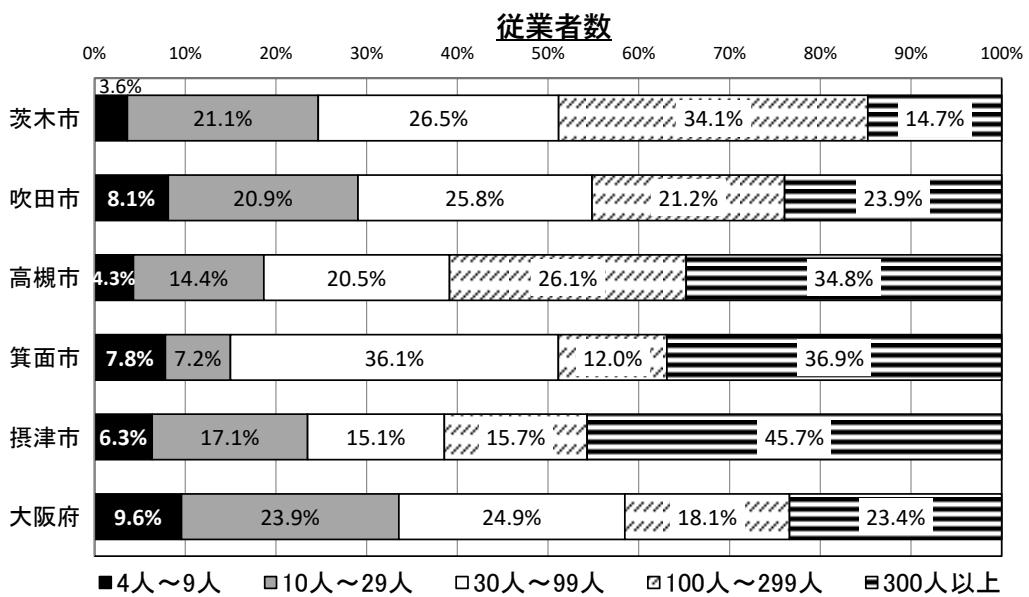
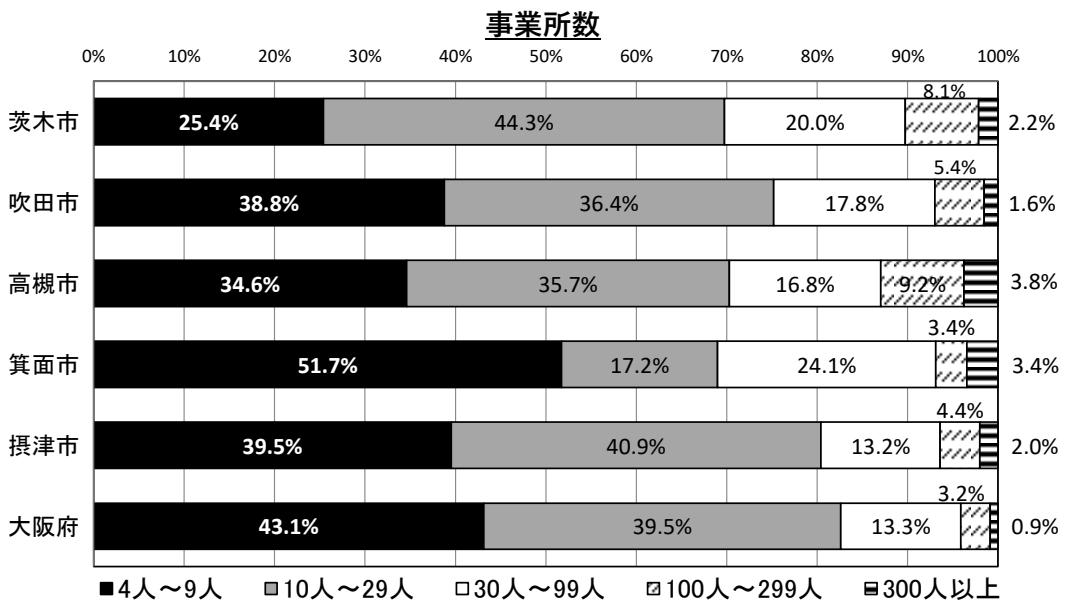
(資料) 各企業のホームページより作成

### (3) 従業者規模別

本市の製造業事業所の従業者規模別の分布状況を見ると、事業所数では従業者数が 99 人以下の中・小規模事業所が全体の 9 割を占めているが、従業者数では、従業者数 100 人以上の事業所が全体の半数を占めている。また、製造品出荷額等では、従業者数 100 人以上の事業所が全体の約 4 分の 3 を占めている。

近隣 4 市と大阪府全体と比較すると、本市では 9 名以下の事業所の割合が最も少なくなっている。また、従業者数 100 人～299 人の事業所が従業者数、製造品出荷額等が他と比べて構成比が高く、中堅規模の事業所が活躍しているものと考えられる。

### 従業者規模別の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の構成比(2017年)



(資料) 大阪府「大阪の工業(2018年)確報」

※吹田市、箕面市、摂津市は、製造品出荷額等の値を秘匿する従業者規模があり、構成比が算出できないため、比較していない。

## 2-3. 卸売業

### (1) 概況

本市の事業所数は、2016年時点で554か所あり、近隣4市との比較では吹田市に次いで2番目に多く、2012年から2016年の4年間で2.4%増加している。従業者数では、4年間で10.7%増加している。年間商品販売額では、4年間で38.2%増加しており、大阪府全体や近隣4市と比べると箕面市に次いで増加率が大きい。

卸売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の変化

(単位：か所、人、億円)

		実数	増減	増減率
		2012年	2016年	'12→'16
事業所数	茨木市	541	554	13
	吹田市	940	1,067	127
	高槻市	251	260	9
	箕面市	192	225	33
	摂津市	245	255	10
	大阪府	25,518	25,998	480
従業者数	茨木市	7,039	7,792	753
	吹田市	11,948	13,553	1,605
	高槻市	2,641	2,896	255
	箕面市	2,085	2,809	724
	摂津市	2,639	2,628	-11
	大阪府	317,314	339,901	22,587
年間商品販売額	茨木市	6,328	8,745	2,417
	吹田市	13,561	16,354	2,793
	高槻市	2,466	2,428	-38
	箕面市	1,437	2,202	765
	摂津市	2,859	3,521	663
	大阪府	425,349	459,619	34,270

(資料)総務省「経済センサス(平成24年・平成28年)活動調査」

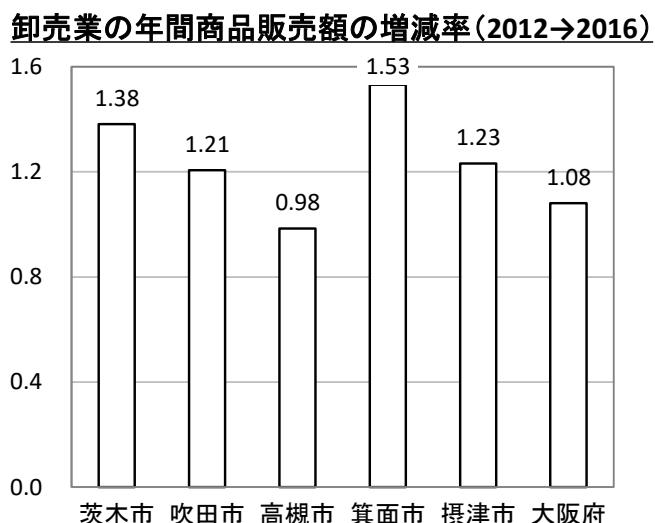
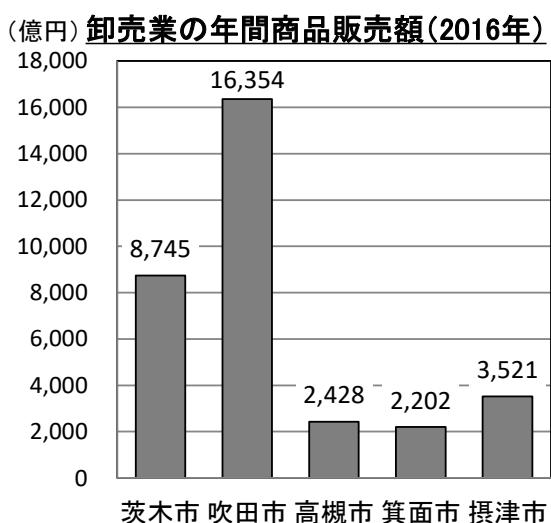
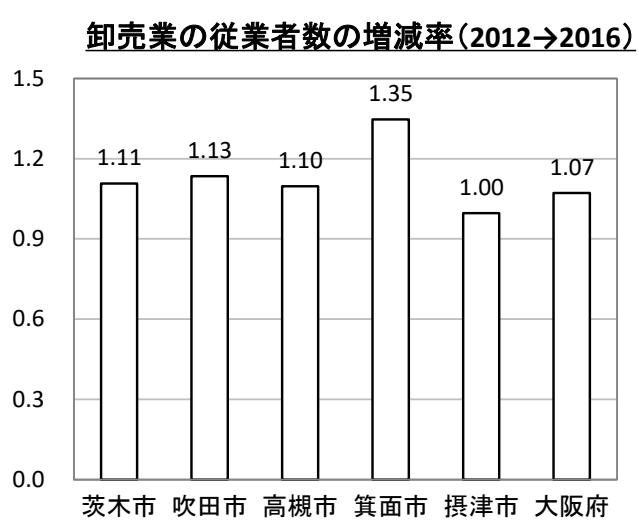
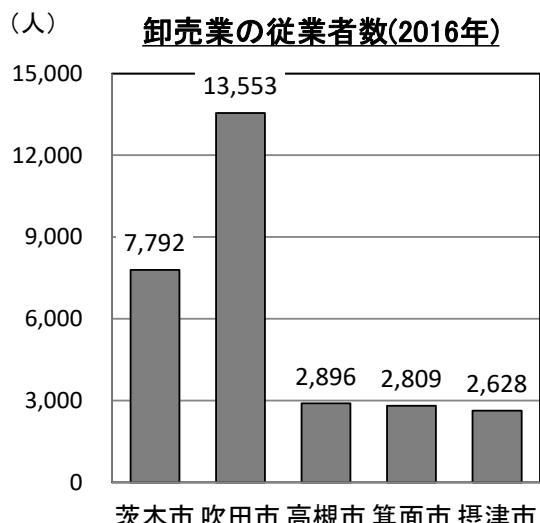
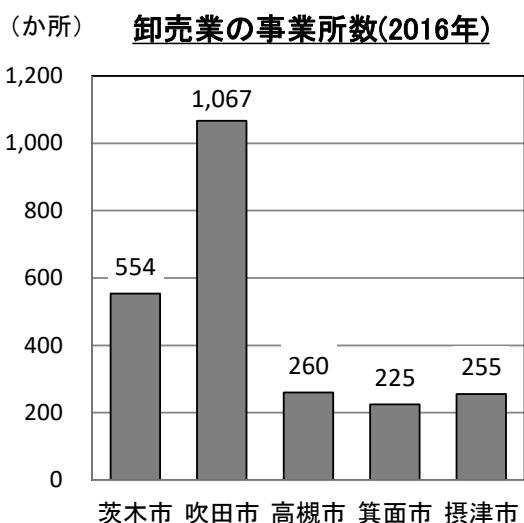
産業別集計(卸売業、小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

※下のように集計されているため、「2-1. 産業構造」の表中の数値とは合致しない。

「2-4. 小売業」についても同様。

- ・管理、補助的経済活動のみを行う事業所、産業細分類が格付不能の事業所、卸売の商品販売額(仲立手数料を除く)、小売の商品販売額及び仲立手数料のいずれの金額も無い事業所は含まない。
- ・従業者数とは、「個人業主」、「無給家族従業者」、「有給役員」及び「常用雇用者」の計であり、「臨時雇用者」は含めていない。
- ・個人経営の事業所は調査項目に売場面積を含まない。

### 卸売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の変化



(資料) 総務省「経済センサス(平成24年・平成28年)活動調査」  
産業別集計(卸売業、小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

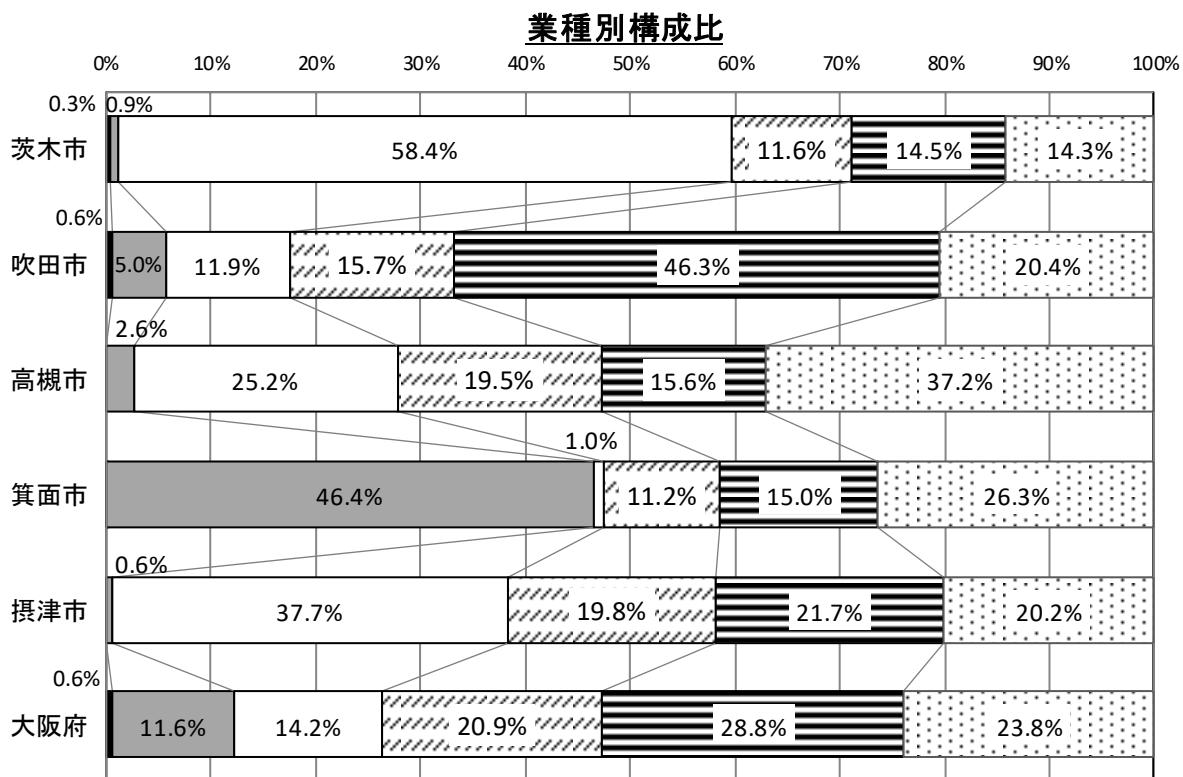
※増減率については、各市、大阪府の2012年時点を1と設定し、各年のその割合を示している。

## (2) 業種別

卸売業の従業者数を業種別に見ると、本市南部にある大阪府中央卸売市場に「飲食料品」の卸売事業者が多数入居しているため、飲食料品卸売業の従業者数は全体の概ね6割を占めている。

近隣4市と比べると、摂津市とは業種別の構成比がやや似ており、「機械器具」の構成比が高い吹田市、「その他」の構成比が高い高槻市、「繊維・衣服等」の構成比が高い箕面市とは異なる傾向にある。

卸売業の業種別従業者数の構成比(2016年)



■各種商品 □繊維・衣服等 □飲食料品 □建築材料、鉱物・金属材料等 ▨機械器具 □その他

(資料)総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」産業別集計(卸売業,小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

## 2-4. 小売業

### (1) 概況

本市の事業所数は、2016年時点で1,200か所あり、近隣4市との比較では、高槻市、吹田市に次いで3番目に多く、2012年から2016年の4年間で9.0%増加している。従業者数では、4年間で24.7%増加している。年間商品販売額では、4年間で20.0%増加しているが、大阪府全体よりも増加率が低い。売場面積では、4年間で3.1%減少しており、近隣4市との比較では、箕面市に次いで減少率が高い。

小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額・売場面積の変化

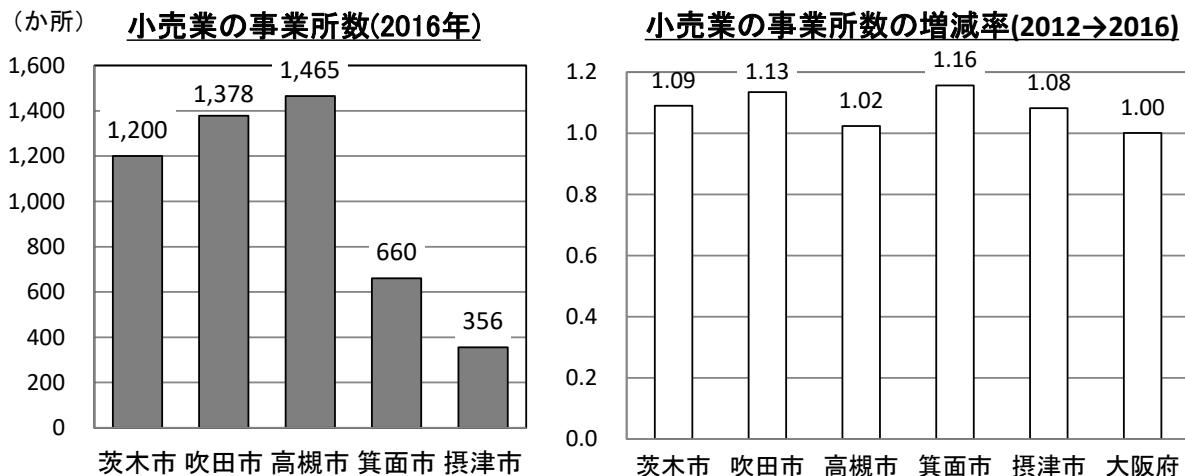
(単位：か所、人、億円、m<sup>2</sup>)

		実数		増減	増減率
		2012年	2016年	'12→'16	'12→'16
事業所数	茨木市	1,101	1,200	99	9.0%
	吹田市	1,215	1,378	163	13.4%
	高槻市	1,432	1,465	33	2.3%
	箕面市	571	660	89	15.6%
	摂津市	329	356	27	8.2%
	大阪府	48,655	48,673	18	0.0%
従業者数	茨木市	9,837	12,265	2,428	24.7%
	吹田市	12,615	14,895	2,280	18.1%
	高槻市	13,005	15,392	2,387	18.4%
	箕面市	4,972	6,439	1,467	29.5%
	摂津市	2,652	3,496	844	31.8%
	大阪府	359,419	423,961	64,542	18.0%
年間商品販売額	茨木市	2,051	2,460	409	20.0%
	吹田市	2,393	2,845	451	18.9%
	高槻市	2,557	3,122	565	22.1%
	箕面市	1,138	1,488	350	30.7%
	摂津市	551	696	145	26.3%
	大阪府	78,903	97,312	18,408	23.3%
売場面積	茨木市	196,590	190,585	-6,005	-3.1%
	吹田市	202,059	216,793	14,734	7.3%
	高槻市	307,118	283,830	-23,288	-7.6%
	箕面市	117,445	119,868	2,423	2.1%
	摂津市	53,650	53,556	-94	-0.2%
	大阪府	7,397,279	7,312,781	-84,498	-1.1%

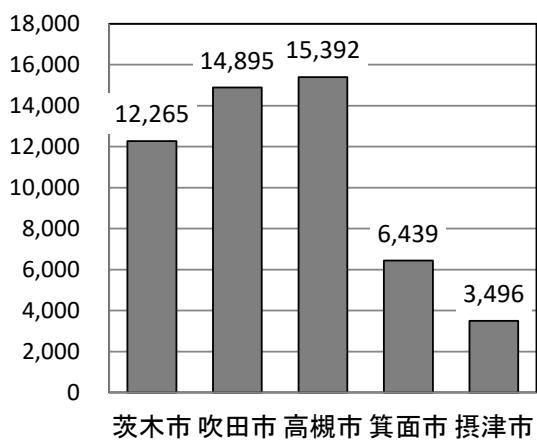
(資料) 総務省「経済センサス(平成24年・平成28年)活動調査」

産業別集計(卸売業、小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

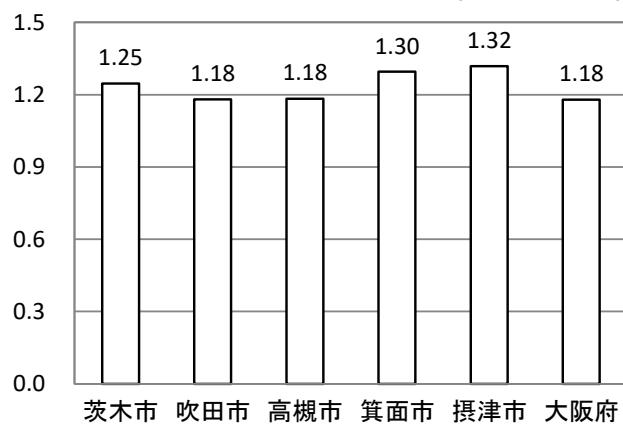
小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の変化



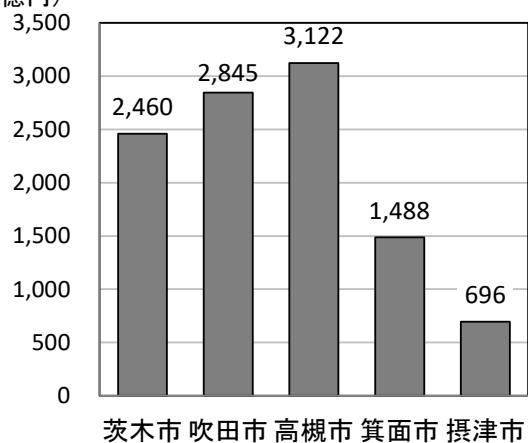
(人) 小売業の従業者数(2016年)



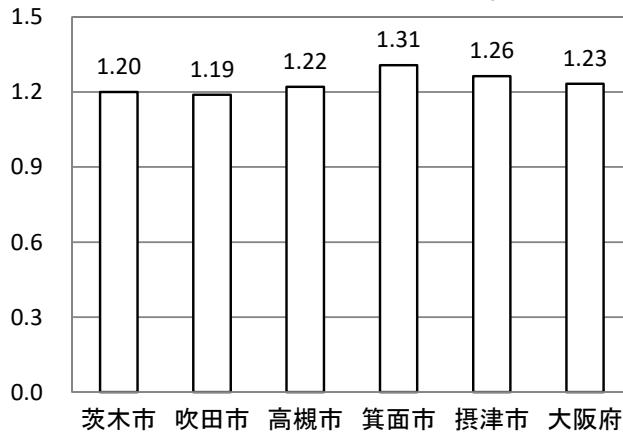
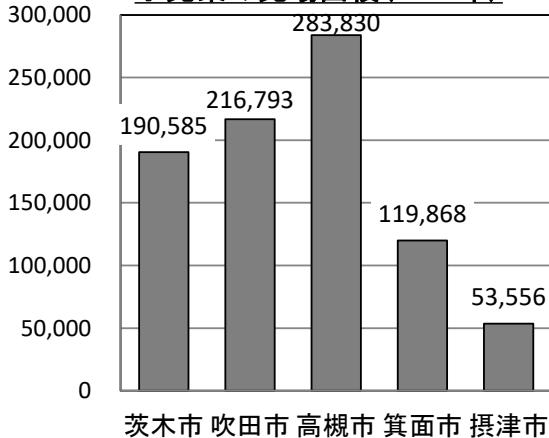
小売業の従業者数の増減率(2012→2016)



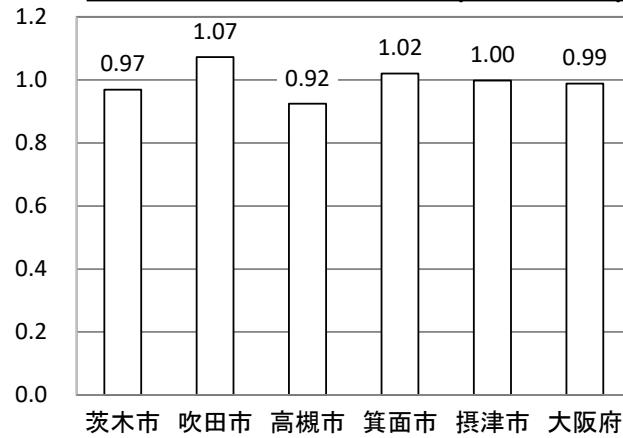
(億円) 小売業の年間商品販売額(2016年)



小売業の年間商品販売額の増減率(2012→2016)

(m<sup>2</sup>) 小売業の売場面積(2016年)

小売業の売場面積の増減率(2012→2016)



(資料) 総務省「経済センサス(平成 24 年・平成 28 年)活動調査」  
産業別集計(卸売業, 小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

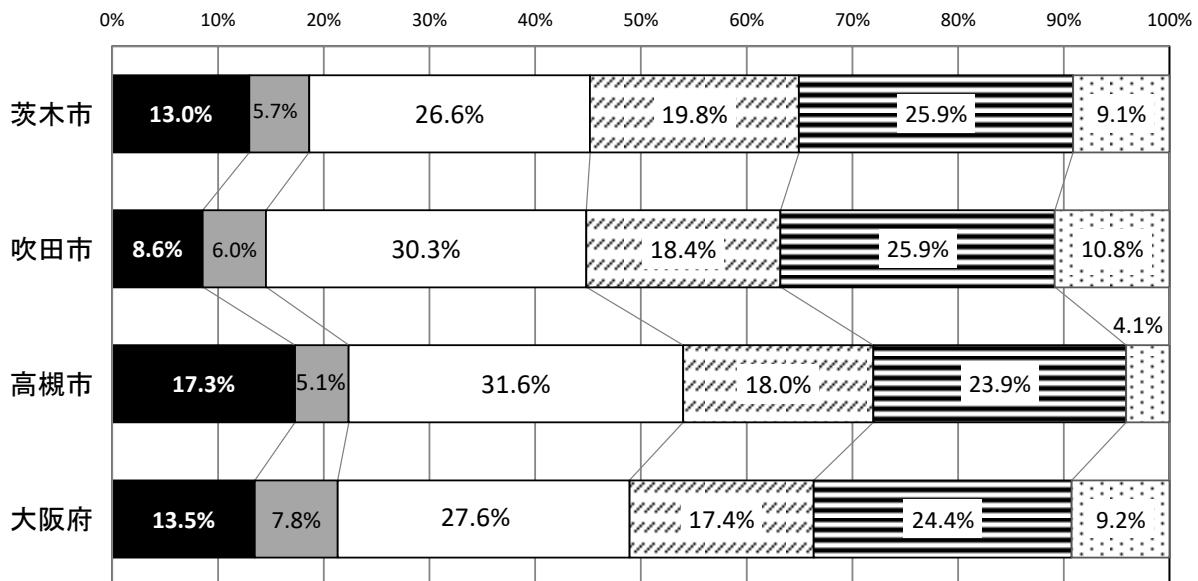
※増減率については、各市、大阪府の 2012 年時点を 1 と設定し、各年のその割合を示している。

## (2) 業種別

小売業の年間商品販売額を業種別に見ると、本市では「飲食料品」(26.6%)と「その他」(25.9%)の割合が2割以上を占めており多く、これら2つの業種で年間商品販売額のほぼ5割を占める。

近隣市と比べると、「飲食料品」の構成比が高い吹田市、「各種商品」「飲食料品」の構成比が高い高槻市よりも大阪府全体と傾向が似ている。

**小売業の業種別年間商品販売額の構成比(2016年)**



■各種商品 □織物・衣服・身回品 □飲食料品 □機械器具 □その他 □無店舗小売

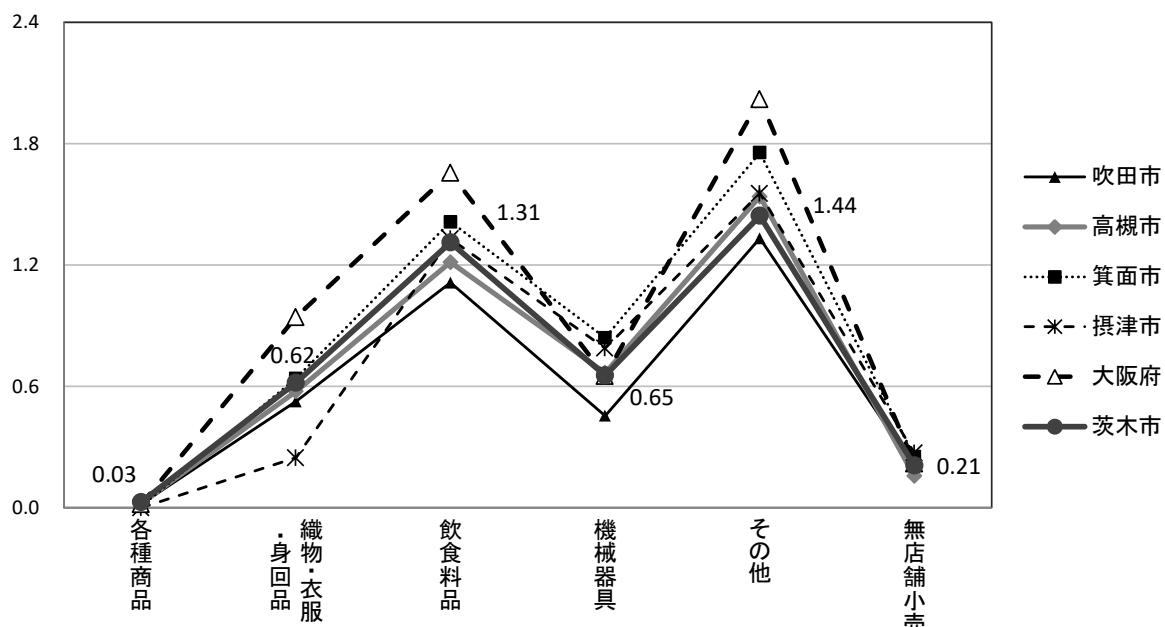
(資料)総務省「経済センサス(平成 28 年)活動調査」産業別集計(卸売業,小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

※箕面市、摂津市は、年間商品販売額の値を秘匿する業種があり、構成比が算出できないため、比較していない。

人口 1,000 人当たりの事業所数（立地密度）を見ることにより、本市と大阪府全体、近隣 4 市を比較すると、大阪府と比べると少ないが、近隣 4 市とは大きな差が見られず、商業施設の充実度はほぼ同等である。

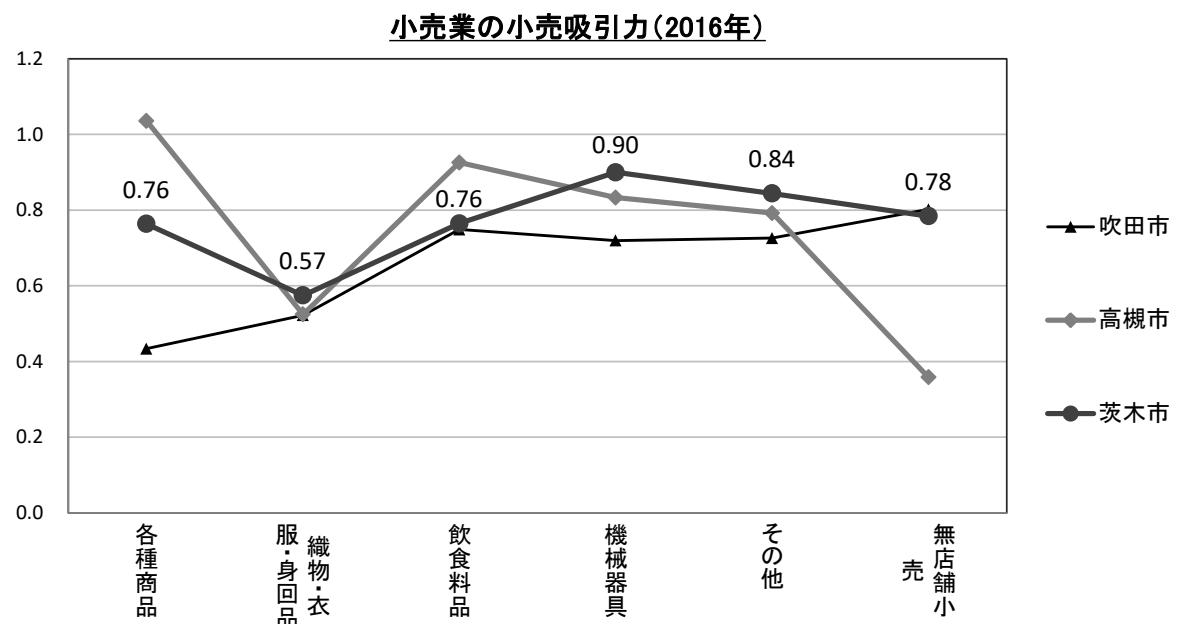
[箇所]

**小売業の立地密度(2016年・人口1,000人当たり事業所数)**



(資料)総務省「経済センサス(平成 28 年)活動調査」産業別集計(卸売業,小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ  
人口は大阪府毎月推計人口(平成 28 年 10 月 1 日現在)を参照。

個店やショッピングセンターなどの商業集積が地域の購買力を自店舗にどれだけ吸引できるかを示す小売吸引力を見ると、本市においては、いずれの業種も1を下回っている。特に、織物・衣服・身回品では、高槻市・吹田市と同様、割合が小さくなっていることから、買い物客が大阪市や京都市といった市外へ流出しているものと考えられる。



(注)小売吸引力=市の1人当たり販売額 ÷ 大阪府平均の1人当たり販売額

(資料)総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」産業別集計(卸売業,小売業)「産業編(市町村表)」統計表データ

※箕面市、摂津市は、年間商品販売額の値を秘匿する業種があり、構成比が算出できないため、比較していない。

## 2-5. サービス業

### (1) 概況

本項目では、経済センサスにおける大分類のうち、「情報通信業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」「複合サービス事業」「サービス業（他に分類されないもの）」を、広義の「サービス業」と位置付けて、以下の分析を行っている。

本市のサービス業の事業所数は、2016年時点で5,374か所あり、近隣4市との比較では、吹田市、高槻市に次いで3番目に多く、2012年から2016年の4年間で3.6%増加している。従業者数では、4年間で3.0%増加しているが、大阪府全体や近隣4市の中では増加率が最も小さい。

サービス業の事業所数・従業者数の変化

(単位：か所、人)

	実数		増減	増減率
	2012年	2016年	'12→'16	'12→'16
事業所数	茨木市	5,189	5,374	185 3.6%
	吹田市	6,242	6,651	409 6.6%
	高槻市	5,456	5,526	70 1.3%
	箕面市	2,402	2,430	28 1.2%
	摂津市	1,700	1,741	41 2.4%
	大阪府	212,273	209,109	-3,164 -1.5%
従業者数	茨木市	47,882	49,310	1,428 3.0%
	吹田市	75,495	85,319	9,824 13.0%
	高槻市	50,415	53,965	3,550 7.0%
	箕面市	20,915	22,218	1,303 6.2%
	摂津市	12,869	14,011	1,142 8.9%
	大阪府	2,055,546	2,167,418	111,872 5.4%

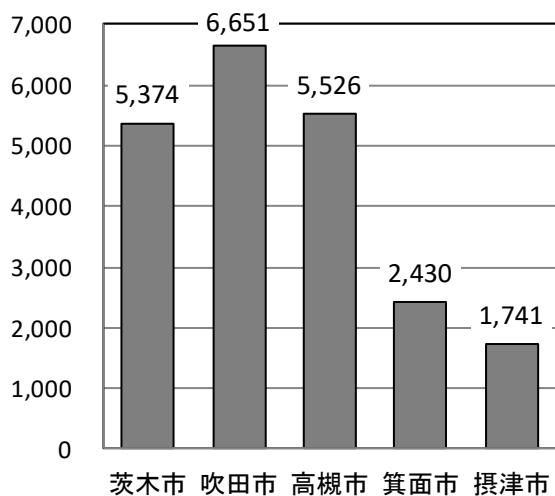
(資料)総務省「経済センサス(平成24年・平成28年)活動調査」

#### 本項で「サービス業」とした産業分類

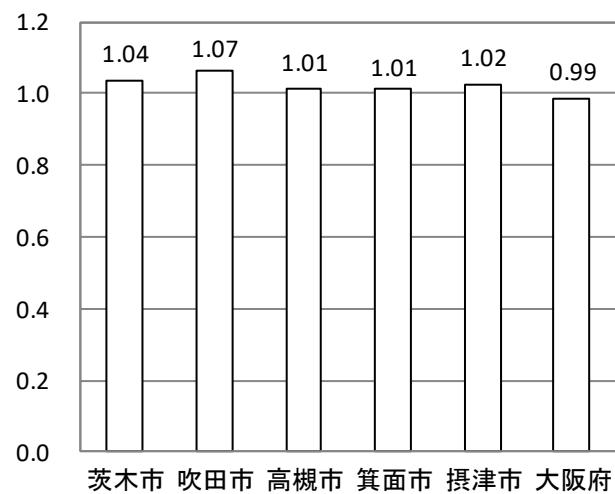
- G 情報通信業
- K 不動産業、物品賃貸業
- L 学術研究、専門・技術サービス業
- M 宿泊業、飲食サービス業
- N 生活関連サービス業、娯楽業
- O 教育、学習支援業
- P 医療、福祉
- Q 複合サービス事業
- R サービス業（他に分類されないもの）

### サービス業の事業所数・従業者数の変化

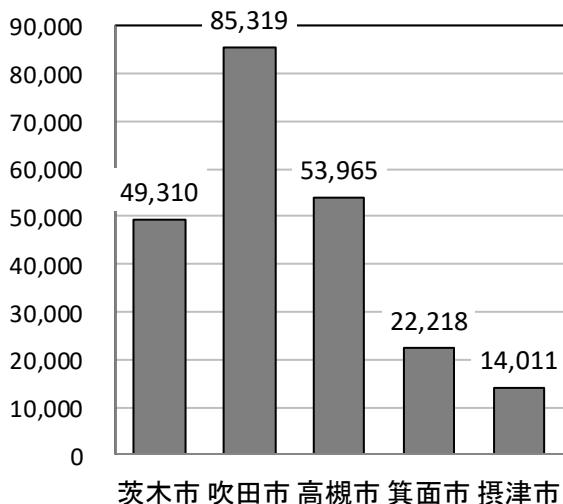
(か所) サービス業の事業所数(2016年)



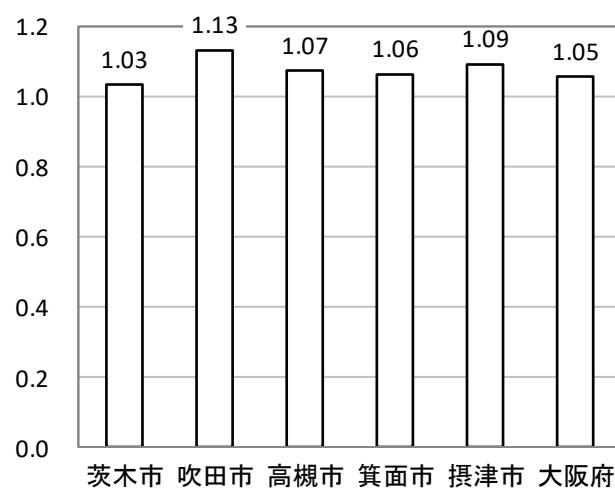
サービス業の事業所数の推移(2012→2016)



(人) サービス業の従業者数(2016年)



サービス業の従業者数の推移(2012→2016)



(資料)総務省「経済センサス(平成24年・平成28年)活動調査」

※増減率については、各市、大阪府の2012年時点を1と設定し、各年のその割合を示している。

## (2) 業種別

サービス業の内訳を業種別従業者数から見ると、本市で最も大きなものは「医療、福祉」(31.4%)であり、大阪府全体よりも構成比が高い。

近隣4市と比べると、「不動産業、物品賃貸業」の構成比が摂津市に次いで高くなっている。

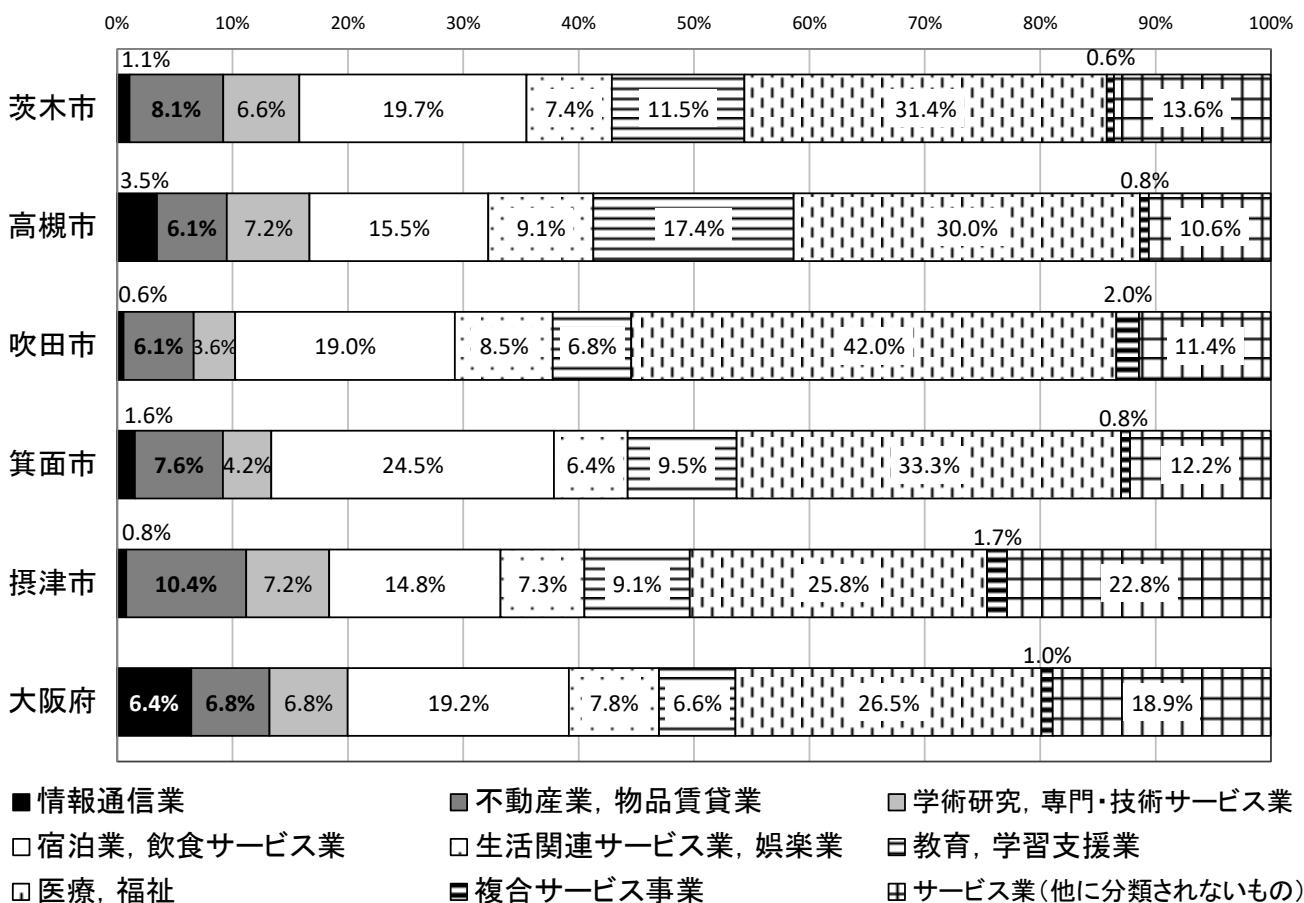
サービス業の業種別従業者数(2016年)

(単位：人)

従業者数(2016年)	茨木市	高槻市	吹田市	箕面市	摂津市	大阪府	茨木市	高槻市	吹田市	箕面市	摂津市	大阪府
総数	49,310	85,319	53,965	22,218	14,011	2,167,418	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
情報通信業	536	2,960	307	346	111	139,601	1.1%	3.5%	0.6%	1.6%	0.8%	6.4%
不動産業、物品賃貸業	4,003	5,165	3,285	1,695	1,457	146,899	8.1%	6.1%	6.1%	7.6%	10.4%	6.8%
学術研究、専門・技術サービス業	3,250	6,120	1,939	932	1,009	146,694	6.6%	7.2%	3.6%	4.2%	7.2%	6.8%
宿泊業、飲食サービス業	9,718	13,219	10,278	5,441	2,080	415,766	19.7%	15.5%	19.0%	24.5%	14.8%	19.2%
生活関連サービス業、娯楽業	3,640	7,772	4,577	1,419	1,020	169,344	7.4%	9.1%	8.5%	6.4%	7.3%	7.8%
教育、学習支援業	5,663	14,805	3,673	2,102	1,278	143,651	11.5%	17.4%	6.8%	9.5%	9.1%	6.6%
医療、福祉	15,495	25,603	22,678	7,401	3,610	574,571	31.4%	30.0%	42.0%	33.3%	25.8%	26.5%
複合サービス事業	301	669	1,067	171	245	21,080	0.6%	0.8%	2.0%	0.8%	1.7%	1.0%
サービス業(他に分類されないもの)	6,704	9,006	6,161	2,711	3,201	409,812	13.6%	10.6%	11.4%	12.2%	22.8%	18.9%

(資料) 総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」

サービス業の業種別従業者数の構成比(2016年)



(資料) 総務省「経済センサス(平成28年)活動調査」

## 2-6. 市民の消費行動

※「茨木市中心市街地活性化基本計画に関する市民アンケート調査（報告書）2017年3月」より

### (1) 買い物・消費行動の場所について

主に利用する店については、「理・美容院、エステ、マッサージなどヘルスケア」「食、喫茶」といったサービス業は中小商店の方が大型店よりも多い一方で、小売業は大型店の利用の方が多い、中でも「衣類、靴、装飾品」「家具、家電等の耐久品」は8割以上が大型店の利用が多いと回答している。

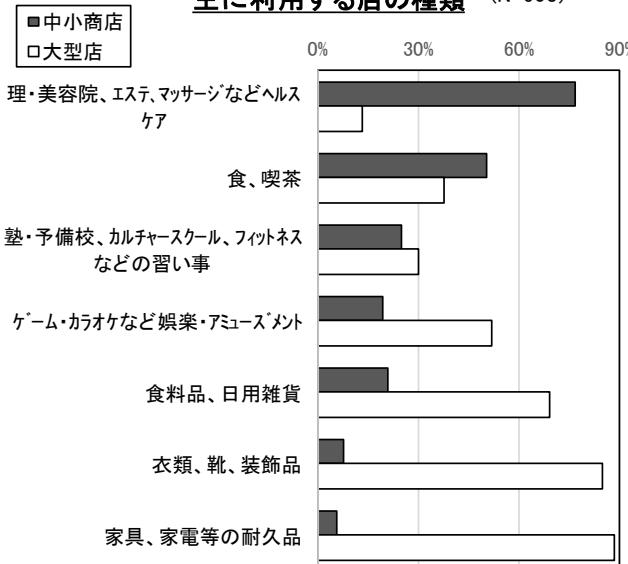
また、主に利用する店の場所については、いずれの項目も市内（中心市街地、市内その他）の利用が多数を占めるが、「衣類、靴、装飾品」「家具、家電等の耐久品」では、市外やオンラインの利用が他の項目よりも多く見られた。

市民が主に利用する店の種類、場所

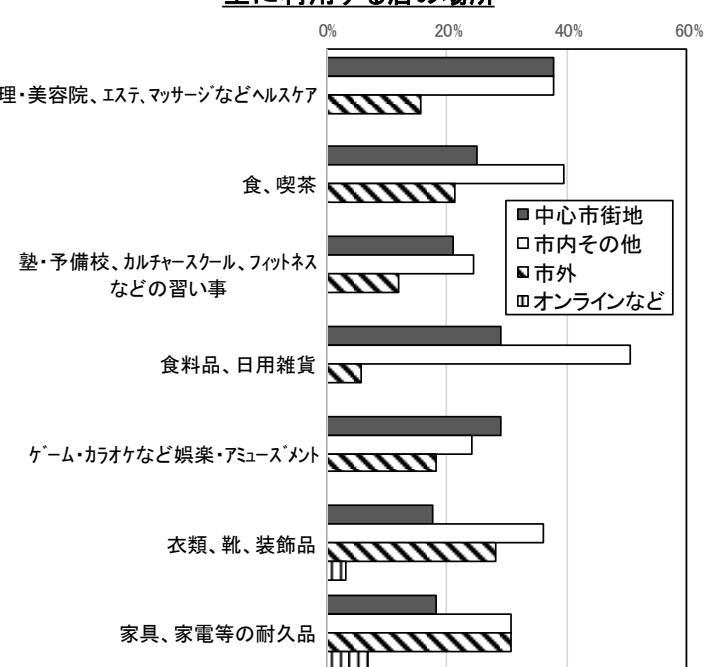
	店の種類※		店の場所※			オンラインなど
	中小商店	大型店	中心市街地	市内その他	市外	
サービス業	理・美容院、エステ、マッサージなどヘルスケア	76.9%	13.3%	37.8%	37.7%	15.7%
	食、喫茶	50.5%	37.7%	25.0%	39.4%	21.3%
	塾・予備校、カルチャースクール、フィットネスなどの習い事	25.3%	30.0%	21.1%	24.5%	12.0%
	ゲーム・カラオケなど娯楽・アミューズメント	19.5%	51.8%	28.9%	24.2%	18.3%
小売業	食料品、日用雑貨	20.9%	69.5%	28.9%	50.5%	5.8%
	衣類、靴、装飾品	7.8%	85.2%	17.5%	36.0%	28.1%
	家具、家電等の耐久品	5.8%	88.6%	18.3%	30.7%	7.0%

※無回答者を含まない数値

主に利用する店の種類 (N=603)



主に利用する店の場所 (N=603)

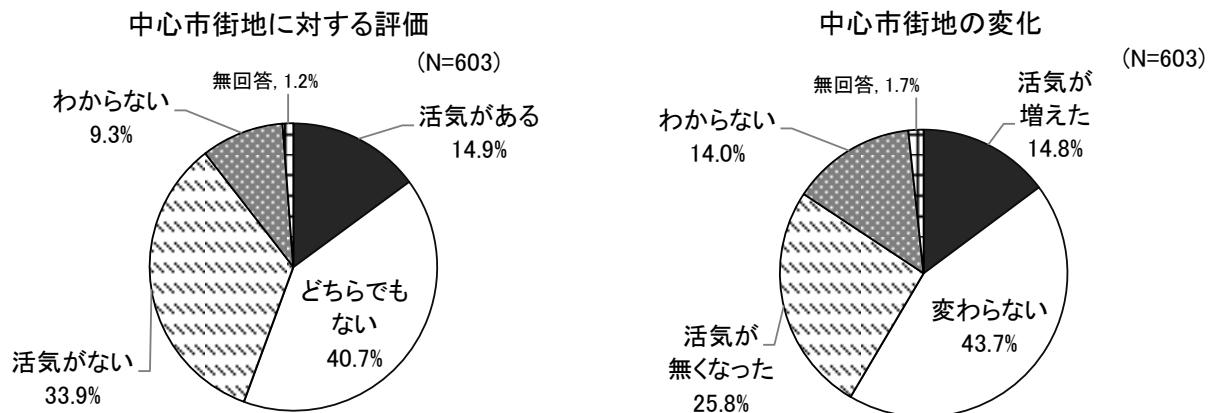


## (2) 中心市街地の評価、変化

中心市街地の評価については、「どちらでもない」が 40.7%と最も多いが、「活気がない」(33.9%)の方が「活気がある」(14.9%)と回答した者よりも多くなっている。

中心市街地の変化については、「変わらない」が 43.7%と最も多いが、「活気が無くなった」(25.8%)の方が「活気が増えた」(14.8%)と回答した者よりも多くなっている。

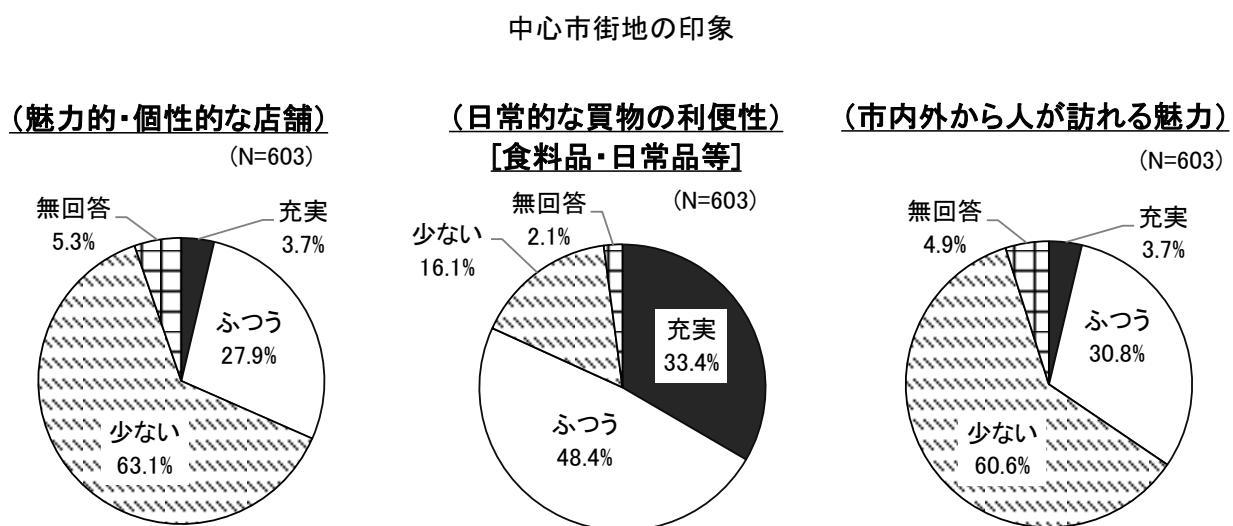
これらのことより、市民からは、中心市街地がどちらかというと活気がなくなりつつあると評価されている傾向にあるものと考えられる。



## (3) 中心市街地の印象

中心市街地の印象として、日常的な買い物の利便性は「充実している」が 33.4%を占めるのをはじめ、高く評価されているがが、魅力的・個性的な店舗、市内外から人が訪れる魅力については「少ない」と回答した者がいずれも 6 割以上を占めている。

これらのことより、日常の買い物をする場としては概ね機能しているものの、魅力を感じている人の割合が少なく、今後、魅力低下が進行し、人が集まらないようになると、既存の商店も衰退する恐れがあるものと考えられる。



#### (4) 今後、中心市街地にはほしい商業施設・店舗

下図の①～④の4つのエリアとともに「飲食店」が第1位であった。

その他、市役所周辺エリアでは、第2位が「医療関連」、第3位が「その他」であったが、残り3つのエリアでは、「食料品・日用雑貨店」と「衣料品店」が第2位または第3位となっている。

これらのことから、中心市街地では、生活密着型の商品・サービスを提供する店舗が求められているものと考えられる。

今後、中心市街地にはほしい商業施設・店舗

	①JR 茨木駅前エリア	②阪急茨木市駅前 エリア	③市役所周辺エリア	④商店街等まちなか エリア
第1位	飲食店 26.1%	飲食店 20.2%	飲食店 17.9%	飲食店 17.1%
第2位	食料品・日用雑貨店 7.2%	衣料品店 8.8%	医療関連 5.7%	食料品・日用雑貨店 10.0%
第3位	衣料品店 6.4%	食料品・日用雑貨店 8.3%	その他 5.5%	衣料品店 6.6%

(注)上位3位までを抜粋

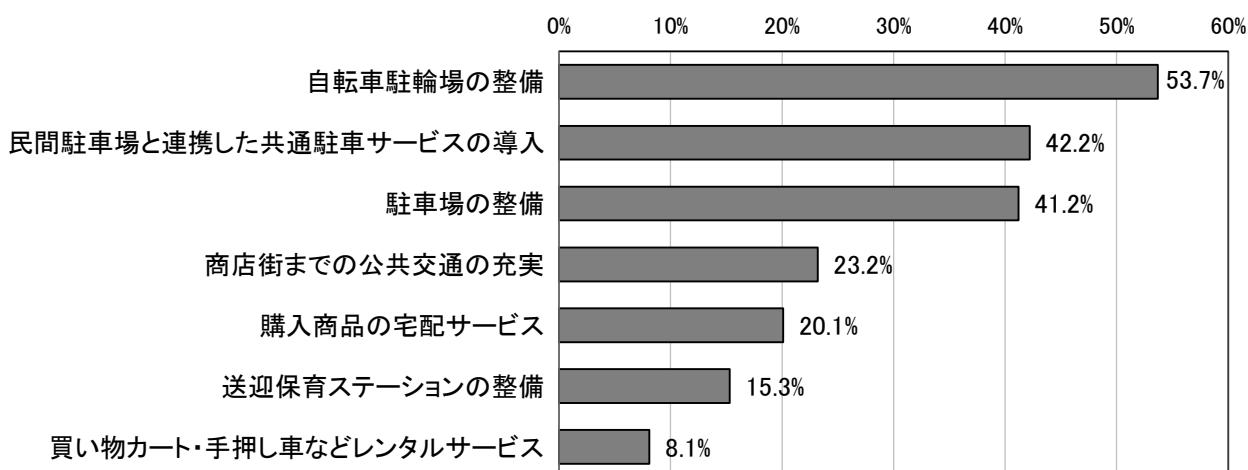
#### (5) 訪れやすく・使いやすい商店街に向けて、実施して欲しい施策

「自転車駐輪場の整備」が53.7%と最も多く、次いで、「民間駐車場と連携した共通駐車サービスの導入」(42.2%)、「駐車場の整備」(41.2%)と続く。

これらのことから、中心市街地までの交通利便性の向上を求める割合が高いものと考えられる。

訪れやすく・使いやすい商店街に向けて、実施して欲しい施策

(N=603)



(注)上位7位までを抜粋

## 2-7. まとめ

### (1) 産業構造

- 従業者数が多いのは、「卸売業、小売業」「医療、福祉」「製造業」「運輸業、郵便業」であり、これらの4つの産業で市内従業者数全体のほぼ6割を占める。このうち「運輸業、郵便業」「医療、福祉」は大阪府全体よりも構成比が高い。
- 2012年から2016年にかけての4年間では、事業所数・従業者数ともに増加。「教育、学習支援業」「医療、福祉」「卸売業、小売業」において従業者数の増加が見られる一方で、「サービス業(他に分類されないもの)」「生活関連サービス業、娯楽業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」は従業者数が減少した。
- 従業者規模別の推移を見ると、「100人以上」では事業所数、従業者数ともに減少している一方、「30~99人」では、事業所数、従業者数ともに増加している。
- 2017年度までは開業率が廃業率を上回っていたが、2018年度は開業率の減少によって逆転した。近年の廃業率を踏まえると、今後も同様の傾向が続く可能性がある。
- 茨木公共職業安定所における有効求人倍率は、2009年度を底として増加の一途をたどっており、全国や大阪府ほど高い水準ではないが、人手不足の状況にある。近年は有効求人倍率の大幅な増加が見られ、今後は人手不足の深刻化が進むものと懸念される。
- 本市の市街化区域は吹田市、高槻市と同規模である。用途地域では住居系の地域群の割合が大きく、近隣4市と比べると、近隣商業地域・商業地域の面積が小さい。

### (2) 製造業

- 最近10年間では、大阪府全体や近隣4市と同様に、事業所数・従業者数・製造品出荷額等ともに減少している。特に、2010~2012年で大幅に減少した製造品出荷額等は府や他市よりも減少率が大きい。ただし、直近の数年間で見ると、従業者数・製造品出荷額等は微増の傾向がみられる。
- 従業者数の最も多い業種は「プラスチック製品製造業」であり、「金属製品製造業」「食料品製造業」「化学工業」と続く。これらは、大阪府全体と比べても構成比が高い。
- 電気機械器具製造業、化学工業において複数の工場閉鎖や移転が見られた一方で、生産用機械器具製造業、プラスチック製品製造業、化学工業の新規立地が見られた。
- 従業者規模別の分布状況を見ると、事業所数では99人以下の中・小規模事業所が全体の9割を占めているが、従業者数及び製造品出荷額等では従業者数100人~299人の事業所が大阪府全体や近隣4市と比べて構成比が高く、中堅規模の事業所が活躍しているものと考えられる。

### (3) 卸売業

- 2012年から2016年にかけての4年間では、事業所数・従業者数・年間商品販売額ともに増加しており、特に年間商品販売額の増加率は高い水準にある。
- 大阪府中央卸売市場に「飲食料品」の卸売事業者が多数入居しているため、飲食料品卸売業の従業者数は全体の概ね6割を占めており、なおかつ販売額も大きい。

#### (4) 小売業

- 2012年から2016年にかけての4年間では、大阪府全体や近隣4市と同様に事業所数・従業者数・年間商品販売額は増加している一方で、売場面積は減少している。
- 年間商品販売額が多いのは、「飲食料品」「その他」であり、これらの2つの業種で年間商品販売額のほぼ5割を占める。
- 近隣4市と商業施設の充実度はほぼ同等である。
- 小売吸引力は、いずれの業種も1を下回っており、買い物客が大阪市や京都市といった市外へ流出しているものと考えられる。

#### (5) サービス業

- 2012年から2016年にかけての4年間では、近隣4市と同様に事業所数・従業者数ともに微増しているが、従業者数については、大阪府全体や近隣4市の中では増加率が最も小さい。
- 従業者数が最も多いのは「医療、福祉」であり、大阪府全体よりも構成比が高い。また、近隣4市と比べると、「不動産業、物品賃貸業」の構成比が高い水準にある。

#### (6) 市民の消費行動

- サービス業に比べると、小売業は、中小商店よりも大型店を主に利用する人が多い。また、いずれの品目も主に市内の店舗を利用する方が多いが、一部の小売業では、市外の店舗やオンラインの利用割合が多いものもある。
- 中心市街地については、日常の買い物をする場としては概ね機能しているものの、活気がなくなりつつあると評価されており、魅力を感じている人も少ない。今後、活気や魅力の低下が進行し、人が集まらないようになると、既存の商店も衰退する恐れがある。
- 今後、中心市街地には、「飲食店」をはじめ、生活密着型の商品・サービスを提供する店舗が求められている。
- 訪れやすく・使いやすい商店街に向けて、駐車・駐輪のための場所やサービスの整備といった交通利便性の向上が求められている。